

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアプランニングⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	熊谷 亮太郎
	(Carrier PlanningⅠ)	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日・3時限
【授業の学習内容】 本科目は、様々な科目で学んだ専門力を総合的に発揮するために、自分自身の将来の進路並びに、自分らしく生きる道を見つけるために、主体的に考え行動し本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせばよいのかという「気づき」を与え、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティ(思いやりの心)を理解し、セルフマネジメント(自己管理)とチームマネジメント(協働作業)が実践的にできるようになるための科目である。							
【到達目標】 ・セルフマネジメント(自己理解)を実践できる。 ・チームマネジメント(協働作業)を実践し、集団での役割を果たすことができる。 ・自己の働く意義(勤労観・職業観)を説明できる。 ・目指す動物業界を理解し、その特徴を説明できる。 ・自己実現(夢をかなえる)のための目標設定をし実践できる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	集団(クラス)づくりの理解と実践 1年間の流れ確認(学生便覧)、クラス規範確認・目標決め①、学習能力チェックプログラム
2回目	セルフマネジメント① 1週間の振り返り、「習慣」プリント配布～8つの習慣～、クラス目標決め②
3回目	セルフマネジメント② GWの過ごし方～1週間をどう過ごすのか～、安全講習～動画(サイバー犯罪編)～
4回目	セルフマネジメント③ GWの振り返り
5回目	チームマネジメント① 学園祭準備活動①
6回目	チームマネジメント② 学園祭準備活動②、日常行動スコア～クラスの中の自分の役割を知る～
7回目	グループワーク① 学園祭準備活動③、「ホスピタリティ」について
8回目	グループワーク② 学園祭の振り返り
9回目	グループワーク③ 「私は建築家」～聴く力を持つ～
10回目	グループワーク④ 夢への一歩を踏み出す勇気を身につける
11回目	グループワーク:成功の原則～卒業生たちから見る行動の原則～、クラス目標の達成度確認
12回目	グループワーク:夏休みの取り組みの振り返りとこれからの目標設定、スポーツフェスタ準備活動①
13回目	夏休みの振り返り、スポーツフェスタ準備活動②
14回目	評価週、解答解説、スポーツフェスタ準備活動③
15回目	前期振り返りと後期に向けての準備、スポーツフェスタ準備活動④
準備学習 時間外学習	・日々の学校生活を記録に残す ・動物業界を知る ・動物施設での校外学習に参加する ・事前課題など各種レポートを書く
評価方法	・集団(クラス)での役割の理解と実践 (50%) ・授業参加状況 (30%) ・期末試験(20%)
【使用教科書・教材・参考書】 ・学生便覧 ・Hand-book of Life Style	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアプランニングⅠ (Carrier PlanningⅠ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	熊谷 亮太郎
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日・3時限
【授業の学習内容】 本科目は、様々な科目で学んだ専門力を総合的に発揮するために、自分自身の将来の進路並びに、自分らしく生きる道を見つけるために、主体的に考え行動し本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせばよいのかという「気づき」を与え、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティ(思いやりの心)を理解し、セルフマネジメント(自己管理)とチームマネジメント(協働作業)が実践的にできるようになるための科目である。							
【到達目標】 ・セルフマネジメント(自己理解)を実践できる。 ・チームマネジメント(協働作業)を実践し、集団での役割を果たすことができる。 ・自己の働く意義(勤労観・職業観)を説明できる。 ・目指す動物業界を理解し、その特徴を説明できる。 ・自己実現(夢をかなえる)のための目標設定をし実践できる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	自己理解 ① スポーツフェスタの振り返り、後期に向けた目標確認(学生便覧)
2回目	自己理解 ② 働く意義(勤労観・職業観)を理解し考える
3回目	自己理解 ③ 履歴書とは、作成方法
4回目	自己理解 ④ 半年を振り返って、自己理解のための振り返り及び目標設定
5回目	自己理解 ⑤ 私の四面鏡～自分の強みを知る～
6回目	企業研究 ① 先輩から学ぶ業界研修について
7回目	企業研究 ② 卒業生から学ぶ業界研修について
8回目	社会人準備 ① 夢をかなえた先輩たちの「行動の原則 + α 」を学ぶ
9回目	社会人準備 ② ガンの群れ～協調性とは～
10回目	「集団での役割」の理解と実践 ① WeareECO準備活動
11回目	「集団での役割」の理解と実践 ② WeareECO準備活動
12回目	「集団での役割」の理解と実践 ③ WeareECO準備活動、今年の振り返り～今年の自分を表す漢字を一文字で表現～
13回目	「集団での役割」の理解と実践 ④ WeareECO準備活動、今年の個人目標発表
14回目	WeareECO～調べ学習クラス内発表～
15回目	1年間の振り返り
準備学習 時間外学習	・日々の学校生活を記録に残す ・動物業界を知る ・動物施設での校外学習に参加する ・事前課題など各種レポートを書く
評価方法	・集団(クラス)での役割の理解と実践 (50%) ・授業参加状況 (30%) ・期末試験(20%)
【使用教科書・教材・参考書】 ・学生便覧 ・Hand—book of Life Style	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	プレゼンテーション I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田代マキ
	Presentation I	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日 4時限
【授業の学習内容】 社会人としてまた、目指す業界に必要な、伝える力を身につける。 表現力、自己分析力、チームワーク力をワークを中心に学習 ※担当教員: キャリアカウンセラー(技能士2級)、精神保健福祉士、公認心理師、学校関係へのキャリア教育や企業研修を通して社会人基礎力の授業や 管理職研修を行い、就職支援からリーダーシップの在り方まで、働く人の心と職場環境を整える活動を展開している。							
【到達目標】 元気な挨拶 相手の立場を考えて話す力 文章組み立て力 周りと協力する力 復習力							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業の内容と意義について
2回目	なぜ学校で学ぶのか? グループワーク討議・伝え方のポイント
3回目	言語コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて
4回目	表情の意味・視線伝達マーク
5回目	相手意識を持った伝え方自己表現練習
6回目	聞くと聴くの違いと、きき上手のポイント
7回目	他己紹介準備
8回目	他己紹介
9回目	報告の仕方・PREP法を身につける。
10回目	PREP法を用いての課題プレゼンテーション準備
11回目	PREP法を用いての課題プレゼンテーション披露
12回目	言葉遣いと敬語の使い方①グループで美化語見つけ
13回目	言葉遣いと敬語の使い方②敬語を使用しての場面練習
14回目	前期評価テスト
15回目	前期の振り返り
準備学習 時間外学習	課題により準備学習、振り返り学習あり
評価方法	・プレゼン力: 40% ・傾聴力: 30% ・筆記試験: 30%
【使用教科書・教材・参考書】 講師オリジナルテキスト	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	プレゼンテーション I Presentation I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田代マキ
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日 4時限
【授業の学習内容】 社会人としてまた、目指す業界に必要な、伝える力を身につける。 表現力、自己分析力、チームワーク力をワークを中心に学習 ※担当教員実務経験: キャリアカウンセラー(技能士2級)、精神保健福祉士、公認心理師。学校関係へのキャリア教育や企業研修を通して社会人基礎力や 管理職研修を行い、就職支援からリーダーシップの在り方まで、働く人の心と職場環境を整える活動を展開している。							
【到達目標】 前期の目標に続き、更にグループの中の個の役割を果たす努力ができる 会話力やプレゼンテーション力を磨き現状の自分を知り、自信をもって、主体的に人と関わって行けるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	後期の目標設定
2回目	ストレス対策 性格の作られ方
3回目	効果的な質問の方法 他己紹介後期編準備
4回目	他己紹介 自己成長評価
5回目	バーバルコミュニケーションとグループワーク
6回目	ノンバーバルコミュニケーションとグループワーク
7回目	中間評価
8回目	仕事遂行能力ペアワーク
9回目	仕事遂行能力グループワーク
10回目	グループワークディスカッションと発表(意見とアイデア)
11回目	グループワークディスカッションと発表(課題解決)
12回目	一年間の成長プレゼン①
13回目	一年間の成長プレゼン②
14回目	前期評価テスト
15回目	前期の振り返り
準備学習 時間外学習	課題により準備学習、振り返り学習あり
評価方法	・プレゼン力: 40% ・傾聴力: 30% ・筆記試験: 30%
【使用教科書・教材・参考書】 講師オリジナルテキスト	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	コミュニケーションスキルアップ (Improving Communication Skills)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	有限会社セレーノ・コーポレーション
専攻名	ドルフントレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30	開講区分	前期
		実施方法	対面授業		2	曜日・時限	木曜日 2時限
【授業の学習内容】 社会人として通用するコミュニケーション力を年間を通じ身に付ける事で、学生生活、就職活動、卒業後の社会生活を円滑に送る事ができ、また人生をより豊かにする機会も増える。この科目ではビジネス現場で求められるコミュニケーションや対応、言葉遣いを実践しながら学ぶ。 ※担当教員実務経験:各種セミナー(話し方、傾聴、新入社員研修等)を通して人材育成事業に取り組む企業より講師を招き、授業を実施する。							
【到達目標】 12月に行われるコミュニケーションスキルアップ検定の合格を目指すと共に、豊かな人生を送るためにコミュニケーションスキルを発揮できるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業の進め方、オリエンテーション(自己紹介)、コミュニケーションの定義【P9～】
2回目	第一印象(コミュニケーションの定義、メラビアンの法則、笑顔の作り方)【P14～】 基本的対話スキル、会話のプロセス
3回目	基本的対話スキル 「話し方」【P18～】
4回目	基本的対話スキル 「聴き方」【P23～】
5回目	基本的対話スキル 「グループでの会話」【P34～】
6回目	ローブレ:情報共有、整理・集約のゲーム①、中間試験対策
7回目	中間試験、自己表現スキル 「挨拶」「自己表現」【P42～】
8回目	中間評価フィードバック、自己表現スキル 「上手な頼み方、断り方」「自己主張」【P46～】
9回目	自己表現スキル 「報連相」「会議・ミーティング」【P60～】
10回目	自己表現スキル 「アンガーマネジメント」【P80～】
11回目	社会的スキル 「基本的な社会的スキル」【P94～】
12回目	社会的スキル 「挨拶」「敬語」「電話応対」【P96～】
13回目	前期評価テスト 対策
14回目	前期評価テスト 実施 試験後、教科書のポイントを再度伝え、内容を理解させる
15回目	前期評価テスト 解説 後期の授業の進め方
準備学習 時間外学習	次週の授業内容の範囲を、教科書を読み、わからない言葉・言い回しを抜き出しておく
評価方法	試験100%
【使用教科書・教材・参考書】 コミュニケーションスキルアップ検定(JESC)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	コミュニケーションスキルアップ (Improving Communication Skills)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	有限会社セレーノ・コーポレーション
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	後期
専攻名	ドルフイントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日 2時限

【授業の学習内容】

社会人として通用するコミュニケーション力を年間を通じ身に付ける事で、学生生活、就職活動、卒業後の社会生活を円滑に送る事ができ、また人生をより豊かにする機会も増える。この科目ではビジネス現場で求められるコミュニケーションや対応、言葉遣いを実践しながら学ぶ。

※担当教員実務経験：各種セミナー（話し方、傾聴、新入社員研修等）を通して人材育成事業に取り組む企業より講師を招き、授業を実施する。

【到達目標】

12月に行われるコミュニケーションスキルアップ検定の合格を目指すと共に、豊かな人生を送るためにコミュニケーションスキルを発揮できるようになる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	ロープレ：ビジネス電話検定、電話応対ゲーム
2回目	社会的スキル 「接客」「訪問」【P105～】
3回目	社会的スキル 「謝罪」【P112～】
4回目	ロープレ：接客、訪問、名刺交換
5回目	社会的スキル 「ビジネス文書」「メール」「FAX」「SNS」【P116～】
6回目	中間試験対策
7回目	中間試験、サービスマインドとは
8回目	中間評価フィードバック DVD鑑賞 マナーの本質 「相手を思いやる心」
9回目	サービスマインド 「サービスとは」「サービスの心得」【P126～】
10回目	サービスマインド 「サービス基本要素」【P132～】
11回目	ロープレ：ビジネスシュミレーションゲーム（敬語・電話応対・訪問・接客）
12回目	謝罪（謝る、お詫びする） マナーを意識した行動
13回目	後期期末試験対策
14回目	後期期末試験、ビジネスシュミレーションワーク
15回目	1年間の総復習、ロープレ
準備学習 時間外学習	次週の授業内容の範囲を、教科書を読み、わからない言葉・言い回しを抜き出しておく
評価方法	試験100%

【使用教科書・教材・参考書】

コミュニケーションスキルアップ検定（JESC）

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ホスピタリティ (hospitality)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	有限会社セレーノ・コーポレーション
専攻名	ドルフントレーナー専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日 1時限
【授業の学習内容】 ホスピタリティ・マインドとは、「おもてなしの心」とも訳され、ビジネスに携わる上で不可欠なものです。相手に満足してもらうサービスを提供する為に、「相手の立場になって考え行動できる力」を身につけ実践出来るように講義形式・実践形式にて理解を深めます。 ※担当教員実務経験：専門学校にて、ビジネスマナー、ホスピタリティ、就職講座など幅広く担当している。							
【到達目標】 ①ホスピタリティの理論と実践の両面からホスピタリティを理解し、マインドとスキルを習得することができる。 ②学んだことを生かし、日常生活においてもホスピタリティ・マインドを持って行動することができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション：講義の説明 ホスピタリティ動画を視聴し、サービスとホスピタリティの違いについて理解することができる
2回目	ホスピタリティを実践するための3つのステップを踏まえ基本マナーを身につける(挨拶・お辞儀)
3回目	プロとしての雰囲気作りを習得することができる(服装・身だしなみの重要性)
4回目	プロとしての雰囲気作りを習得することができる(言葉遣い・声の出し方)
5回目	電話対応の基本マナーとビジネス上の定番トークを覚え、信頼を得る電話対応ができる
6回目	電話対応 ロールプレイング
7回目	おもてなしにあたってのマナーについて理解し、現場で実践することができる
8回目	プロとしての雰囲気作りを習得することができる(コミュニケーションが始まる挨拶・笑顔)
9回目	適当な挨拶のデメリットとマナーにかなった挨拶のメリットについて理解を深めることができる
10回目	マインド(心構えや気持ち)、知識、行動など振り返り、再確認することができる。
11回目	リッツ・カールトンのホスピタリティについて調べ、感動を与えるサービスについて理解することができる
12回目	自分が体験した感動サービスについて取り上げ、感性を磨くことができる
13回目	評価試験対策
14回目	評価試験
15回目	前期講義の振り返り
準備学習 時間外学習	事前学習では、シラバスを読み講義概要を確認すること。 時間外学習では、ホスピタリティを身につけるために行動すること。相手に対してちょっとした気遣いの積み重ねです。まずは考え行動しましょう。
評価方法	・試験:80% ・平常点:20%
【使用教科書・教材・参考書】 【使用参考書】 図解版ホスピタリティの教科書/林田正光 著	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアサポートアップ (Improving Communication Skills)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	松岡尚美
専攻名	ドルフントレーナー専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜1時限
【授業の学習内容】 就職活動の基本である自己分析と企業研究の必要性を学び、志望動機、自己PRを完成させ、履歴書を自立して作成できるようになります。また発声練習やグループワークを通して、効果的な自己表現を可能にし、自信を持って面接に挑み、結果を手にしていきます。 【実務経験】 就職講座・コミュニケーション講座などの非常勤講師として業務に携わる。							
【到達目標】 - 自己分析(理解)によって、自分の強み、弱みを効果的に伝えられるようになる。 - 履歴書、エントリーシートが自立して書けるようになる。 - 自己分析、企業研究によって、自分の目指す企業のマッチングが可能になり、適切な面接対策ができる。 - 個人面接、集団面接など、様々なケースを想定し、ロールプレイングを通じて、自己表現に自信が付く。 - 小論文の基本的書き方を習得する。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション 就職活動において現在地を確認し、ゴール設定ができる
2回目	自分の適性を知る 分析ツールを使って強みの原点を把握できる
3回目	自己分析の基礎①希望業種に内定するために現状を知り、就職活動の全体像を掴むことが出来るようになる
4回目	自己分析の基礎②希望業種に内定するために現状を知り、就職活動の全体像を掴むことが出来るようになる
5回目	企業研究・業界分析の仕方について① グループワークを行い広い視野を養うことができる
6回目	履歴書の書き方 形式を遵守した上で、自分らしい履歴書が書けるようになる。
7回目	面接対策① 面接の全体像が把握できる
8回目	面接対策② 見た目・中身の両方に対する戦略が分かる
9回目	面接対策③ 模擬面接 お互い分析、フィードバックすることで客観的に自分を把握することができる
10回目	WEB面接対策
11回目	適性検査対策
12回目	論理的文章の書き方 作文・小論文 ①
13回目	論理的文章の書き方 作文・小論文 ②
14回目	試験
15回目	総まとめ
準備学習 時間外学習	予習復習をしましょう
評価方法	・試験:80% ・提出物:20%
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	コンピュータ演習	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	井口恵美里
	(Computer Skills Practice)	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日3時限
【授業の学習内容】 業種を問わず必要とされる「コンピュータの操作」を勉強していく 前期は「Word」を使い「レポート」や「写真を貼った文章」が作れるように勉強していく。また、安全にインターネットを利用できるように「ITリテラシー」も勉強する 前期・後期をまたぎ「PowerPoint」でスライド作成の勉強をする。 基本的な授業の進め方は、今日勉強する事の説明→教科書の説明→プロジェクターで実演→PCで操作とする。 ※実務者経験 滋慶学園各校でコンピュータ授業講師(23年)							
【到達目標】 教科書を読みながら、書かれている操作が出来るようになる Wordを使ってレポート作成が出来るようになる 安全にインターネットを利用できるようになる 「We are ECO」のスライドが作れるようになる							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション/ITリテラシー①
2回目	ITリテラシー②
3回目	Wordの基本操作①
4回目	Wordの基本操作②
5回目	Wordの基本操作③
6回目	Wordの基本操作④
7回目	Wordの基本操作⑤
8回目	Word中級編①
9回目	Word中級編②
10回目	Word中級編③
11回目	Wordの応用①
12回目	Wordの応用②
13回目	Wordの応用③
14回目	期末評価/Wordの応用まとめ
15回目	PowerPoint基礎①
準備学習 時間外学習	課題提出の準備として、事前の画像・映像などの撮影チェック(スマートフォンでできる範囲でよい) 授業の予習として、わからない言葉や内容の部分を自宅のネット環境で調べられる範囲の予習。 授業後の内容確認としてパソコン操作の確認する
評価方法	小テスト(20%)＋中間評価テスト(30%)＋期末テスト(50%) ※中間・期末の評価は提出作品(Word作品提出)
【使用教科書・教材・参考書】 Word office365&2021 COMPUTER BASIC of Windows (株式会社滋慶出版) Excel office365&2021 COMPUTER BASIC of Windows (株式会社滋慶出版)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	コンピュータ演習	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	井口恵美里
	(Computer Skills Practice)	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日3時限
【授業の学習内容】 業種を問わず必要とされる「コンピュータの操作」を勉強していく 前期は「Word」を使い「レポート」や「写真を貼った文章」が作れるように勉強していく。また、安全にインターネットを利用できるように「ITリテラシー」も勉強する 前期・後期をまたぎ「PowerPoint」でスライド作成の勉強をする。 基本的な授業の進め方は、今日勉強する事の説明→教科書の説明→プロジェクターで実演→PCで操作とする。 ※実務者経験 滋慶学園各校でコンピュータ授業講師(23年)							
【到達目標】 教科書を読みながら、書かれている操作が出来るようになる Wordを使ってレポート作成が出来るようになる 安全にインターネットを利用できるようになる 「We are ECO」のスライドが作れるようになる							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	PowerPoint基礎(印刷、スライドマスター、切り替え効果、アニメーション)
2回目	PowerPoint課題提出
3回目	Excelの基礎①
4回目	Excelの基礎②
5回目	Excelの基礎③
6回目	Excelの基礎④
7回目	Excel中級編①
8回目	Excel中級編②
9回目	Excel中級編③
10回目	Excel中級編④
11回目	Excelの応用①
12回目	Excelの応用②
13回目	Excelの応用③
14回目	期末評価/Excel応用まとめ
15回目	まとめ(Word・Excel・PowerPoint)
準備学習 時間外学習	課題提出の準備として、事前の画像・映像などの撮影チェック(スマートフォンでできる範囲でよい) 授業の予習として、わからない言葉や内容の部分を自宅のネット環境で調べられる範囲の予習。 授業後の内容確認としてパソコン操作の確認する
評価方法	小テスト(20%)+中間評価テスト(30%)+期末テスト(50%) ※中間・期末の評価は提出作品(PowerPoint作品提出・Excel作品提出)
【使用教科書・教材・参考書】 Word office365&2021 COMPUTER BASIC of Windows (株式会社滋慶出版) Excel office365&2021 COMPUTER BASIC of Windows (株式会社滋慶出版)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	アニマルベーシック (Animal Study Basics)	必修 選 択	必修	年 次	1	担当教員	高山 清次
		授業形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	水曜日2時限
【授業の学習内容】							
動物に関する勉強をする場合の生物学的基礎知識を理解することを目的とする。							
※担当教員：麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了/獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 教育顧問を務める。							
【到達目標】							
この科目を受講した学生が、基礎生物学の知識を身につけることにより、動物業界で活躍する人材になることを目標としている。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	光合成・食物連鎖、血液の役割・成分・生成、消毒滅菌について理解できる。
2回目	ゾーノーシス、濃度計算と希釈法、バイタルサイン、生体防御システムについて理解できる。
3回目	エイズと免疫、アレルギーと免疫、ワクチンと免疫、外分泌と内分泌、代謝について理解できる。
4回目	五大栄養素、遺伝、繁殖、イヌとネコの交配について理解できる。
5回目	DNA・遺伝子・ゲノム、体細胞クローン動物、外来種、絶滅危惧種について理解できる。
6回目	温暖化、酸性雨、オゾンホール、エコロジー関連の国際条約について理解できる。
7回目	評価及び振り返り
8回目	まとめ
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	テキストの範囲内を予習・復習する。
評価方法	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。
【使用教科書・教材・参考書】	
「ECO業界で役立つ基礎生物(ECO専門基礎科目テキストセット) 株式会社滋慶出版」	

2024年度 シラバス

科 目 名 (英語表記)	動物の体のしくみ (Animal Anatomy and Physiology)	必修 選択	必修	年 次	1	担当教員	高山 清次
		授業形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用		曜日・時限	水曜日2時限	
【授業の学習内容】							
犬を中心とした基本的な動物の体の構造・骨格や生理的な知識について、理解することを目的とする。							
※担当教員：麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了/獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 教育顧問を務める。							
【到達目標】							
犬の体を構成する各機関の位置、構造、機能をそれぞれ理解することにより、動物の飼養管理や疾病予防に役立つことを目標としている。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	外皮系、消化器系(歯・食道・胃・小腸・大腸・肝臓・胆のう・膵臓)の構造と働きについて理解できる。
2回目	泌尿器系(腎臓・膀胱)、呼吸器系(気管・肺)の構造と働きについて理解できる。
3回目	生殖器系(雄性生殖器・雌性生殖器)、内分泌系(下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎・胸腺)の構造と働きについて理解できる。
4回目	循環器系(心臓・血液循環・リンパ系)、感覚器系(眼球・耳)の構造と働きについて理解できる。
5回目	神経系(脳・脊髄)、筋系(骨格筋・横隔膜)の構造と働きについて理解できる。
6回目	骨格系(骨格)、細胞の構造と働きについて理解できる。
7回目	評価及び振り返り
8回目	まとめ
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	テキストの範囲内を予習・復習する。
評価方法	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。
【使用教科書・教材・参考書】	
「イラストで見る動物の体のしくみ(ECO専門基礎科目テキストセット) 株式会社滋慶出版」	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	動物の健康管理 (Animal Health Management)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高山 清次
		授業形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	水曜日2時限
【授業の学習内容】 動物を飼育するための飼育管理方法、病気やその予防法を理解することを目的とする。 ※担当教員：麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了/獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 教育顧問を務める。							
【到達目標】 動物を飼育するための飼育管理方法、病気やその予防法を理解できている。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	ウオンバット・キツネ・キリン・カンガルーなどの飼養管理について理解できる。
2回目	クマ・タヌキ・ゾウ・ニホンザルなどの飼養管理について理解できる。
3回目	アザラシ・イルカ・ウミガメ・クラゲなどの飼養管理について理解できる。
4回目	イヌ・ネコ・ウサギ・インコ・モルモットなどの飼養管理について理解できる。
5回目	ウシ・ウマ・ニワトリ・ブタなどの飼養管理について理解できる。
6回目	評価及び振り返り
7回目	まとめ
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	テキストの範囲内を予習・復習する。
評価方法	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。
【使用教科書・教材・参考書】 「イラストで見る動物の飼養管理(ECO専門基礎科目テキストセット) 株式会社滋慶出版」	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	アニマルヒストリー (History of Interconnection between Animals and Humans)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高山 清次
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	水曜日2時限
【授業の学習内容】 動物に関する歴史を学び、現代社会において、いかに動物との関係が必要であるかについて理解することを目的とする。 ※担当教員: 麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了/獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 教育顧問を務める。							
【到達目標】 この科目を受講した学生が、広い視野と柔軟な考え方をもち、「人と動物のより良い関係」を築くことができる業界人になることを目標とする。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	動物の進化とゲノムDNAの進化について理解できる。
2回目	イエイヌの歴史、人間と家畜の歴史、動物の仕事に携わる者としての倫理を理解できる。
3回目	ペットビジネスの種類を理解し、環境を守る観察と観光について知識を深めることができる。
4回目	動物介在療法(AAT)と動物介在活動(AAA)、動物が人に与える効果について、セラピーに向く動物の育成、ペトロスについて、理解できる。
5回目	牧羊犬、警察犬、救助犬、身体障害者補助犬法、盲導犬、介助犬、聴導犬、ズーノーシスについて理解できる。
6回目	評価及び振り返り
7回目	まとめ
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	テキストの範囲内を予習・復習する。
評価方法	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。
【使用教科書・教材・参考書】 「動物年表で知るアニマルヒストリー(ECO専門基礎科目テキストセット) 株式会社滋慶出版」	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	次世代のための環境教育 (Environmental education for the next generation)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高田 浩二
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日2時限
【授業の学習内容】 環境教育という言葉は、45年前の1975年に国連のベオグラード憲章の中で提唱された言葉である。また、我が国の公害も水俣病のように1950年代からすでに問題になっており、環境に対する人々の興味関心を高める教育は半世紀以上前から重要視されてきていた。近年、SDG'sやマイクロプラスチックが注目されているが、環境教育は近年のトレンドではない。私たちは古くからあった環境問題を学ぶために誰からどのような機会を与えられてきたか、またそもそも地球にとって環境とはなにかを知っておく必要もある。本講義では地球環境や環境教育に対する基礎から応用までを解説し、それぞれに理解できることで、次世代の環境に対する認識や知識の習得を目指す。 ※担当教員実務経験: 1988年6月～2016年6月まで海の中道海洋生態科学館に勤務し(2004年～2016年は館長を歴任)、その後、福山大学生命工学部海洋生物科学科教授を2019年3月まで歴任し現在、海と博物館研究所長を務める。水族館に限らず広く博物館学や学芸員養成課程にも携わり、福岡県内の大学でも教鞭をとってきた。							
【到達目標】 講師が長年勤務してきた水族館の環境教育の展示や解説、教育普及の活動、また、生き物の命を預かる場でもある水族館の役割などにも理解を深める。さらに、そもそも私たちの住む地球がどれほど奇跡的な出来事の繰り返しで今日の環境ができていくのかについて、具体的な環境因子ごとに、例えば「光」という当たり前の存在が宇宙誕生から今までの悠久の時間の流れの中での影響についても関心を深める。 <具体的な目標> 目標①水族館や博物館の役割の中で、環境教育にどれほど寄与できるかに気付くことができる。 目標②地球上の様々な環境因子が、生物やその進化にどう影響を与えて今の環境があるかに気付く。 目標③多くの環境問題の実態を知り、自分がどのように行動すべきか、具体的なイメージをつかむことができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	(目標①)海の命から学ぶ環境教育 水族館の役割の中にある環境教育に気付く。
2回目	(目標①)ヒトが動物を飼う(命を預かる)環境とは 動物園水族館に限らず、ペットや畜産などにおける人の飼育という行為や環境に理解を深める。
3回目	(目標②)環境要因 光と生物1 光とは何かについて宇宙物理学的視点から生物への影響に気付き、環境要因の1つである光に理解を深める。
4回目	(目標②)環境要因 光と生物2 光が生物進化のなかでどのように環境因子として関係してきたかについて理解をする。
5回目	(目標②)環境要因 光と生物3 光と色の関係やそれらが生物の目の発達にどう影響してきたか気づく。
6回目	(目標②)環境要因 生物の住環境について生態学という側面から考えることができるようになる。
7回目	(目標②)環境要因 振り返り学習 地球誕生のYouTube教材視聴と感想交流することで他の学生と学びを深める。
8回目	(目標②)環境要因 鉄と生物1 地球環境における鉄の循環が生物にとって重要な呼吸にどう関与しているかを知る。
9回目	(目標②)環境要因 鉄と生物2 生物の呼吸の仕組みが環境とどう関係しているか、呼吸確保の仕組みを知る。
10回目	(目標②)環境要因 塩分と生物 水辺にすむ生物が塩分と生息環境がどう関与しているか気づく。
11回目	(目標③)海洋プラスチック問題と博物館 近年になって問題されるマイクロプラスチックによる海洋汚染に博物館はどう関与できるかを知る。
12回目	(目標③)欧米の水族館における環境教育とその展示 環境教育先進国での事例から我が国の水族館の在り方を考える。
13回目	(目標③)動物愛護や環境保全に関する法律と水族館 環境問題に関する法律を知ること自分の行動の在り方に気付く。
14回目	定期試験と13回授業までのふりかえり
15回目	模範解答の解説(水族館を楽しい学びの場にするために)
準備学習 時間外学習	(目標①)できるだけ多くの博物館、水族館を見学、もしくはウェブサイト経由で訪問する。 (目標②)中学校時代の理科学習(物理、地学、生物、化学)を多面的な視点で振り返ってみる。 (目標②)日常の身の回りの出来事になぜ、どうしてという気持ちや視点で見つめなおす。 (目標③)これからの水族館や博物館がどうなっていくか環境問題との関連から想像する。
評価方法	毎回の講義に簡単な授業感想を書いて提出する。13回目のワークショップは制作物で評価する。中間テストは行わない。 ●授業感想と制作物(10%) ●定期テスト(90%) 上記の割合で成績評価を行う。
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:特になし。 参考書:水族館の仕事、「西源二郎・猿渡敏郎」編著 東海大学出版会。海洋プラスチックごみ問題の真実、「磯辺篤彦」著 DOJIN選書。必ずしも買わなくてもよい。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	次世代のための環境教育 (Environmental education for the next generation)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	大橋 光雄
専攻名	ドルフィントレーナー 専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日 2時限
【授業の学習内容】 環境問題の概略を理解し、ジレンマや事例研究を参考にトリレンマ懸案をどのように自分たちの職場や社会にしていくなか、またワークショップ(workshop)を用い読み解く力をつける。 ※担当教員実務経験: 福岡県キャンプ協会名誉会長、元(公益社)日本キャンプ協会 理事 専門委員、キャンプディレクター1級、プロジェクトワイルドファシリテーター、アメリカ冒険学校 NOLS WRWコース終了							
【到達目標】 自分たちの業界と環境問題のつながりを知り、環境教育の必要性と目的を理解する。また、自然環境の一員としての人間の位置づけを環境倫理の面から掘り下げて考察する。その上で主に9の категорияで環境教育を紐解き多様な考えや社会経済との結びつきを考察することができるようになる。各時間の授業のPPTを用い内容にそった講義とワークショップ(workshop)を通して理解を深めるようにする。また、実際に今の環境教育が考えられるように新聞報道や環境教育の取り組みアクティビティ等演習を実施する。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	ガイダンス・環境教育の必要性と目的
2回目	世界の環境問題1(地球温暖化)海洋のメカニズム
3回目	世界の環境問題2(海洋と生物多様性)仕組みと身近な事例
4回目	世界の環境問題3(オゾン層の破壊)
5回目	世界の環境問題4(海洋汚染～ゴミ問題～食糧問題)
6回目	環境問題の啓発者の探る1. Severn Cullis-Suzuki リオの伝説のスピーチを読み解く
7回目	環境問題の啓発者の探る2. 世界の環境教育の流れ「ベオグラート憲章」
8回目	日本の環境教育の流れ「関心・理解・行動」日本型の検証
9回目	環境教育における環境倫理 酸性雨・海洋汚染 マイクロプラスチック
10回目	環境教育における環境倫理 有害廃棄物の越境移動
11回目	環境教育における環境倫理 水生生物種の減少1 マイクロプラスチック
12回目	環境教育における環境倫理 水生生物種の減少2 マイクロプラスチック
13回目	環境教育における環境倫理 ジレンマからトリレンマ 砂漠化
14回目	理解度の確認 Q&A 環境クイズ エコ検定
15回目	試験の解説と補足
準備学習 時間外学習	毎回動画や新聞を題材に用いアクティブラーニングESD(Education for Sustainable Development) SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)等を用いる。世界の動きやニュースソースに関心を持ち環境用語を理解しておくこと
評価方法	定期試験80% 発表10% 受講出席率10%
【使用教科書・教材・参考書】 適宜 資料を配布する。 また授業理解のためのミニテストを行う。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	海洋自然観察概論 (Introduction to sustaining Ocean Nature Observation)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	菅原 茂 (他PACIの非常勤講師)
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	月曜日3・4時限
【授業の学習内容】							
本講義は環境教育促進法(略称)に基づきプログラムされ、環境省に「インタープリター入門講座」として登録されている(環境省のホームページ参照：http://www.env.go.jp/policy/post_122.html)。全教習23時間強にわたる構成となっている。NPO法人PACI・国際海洋自然観察員協会設立依頼20年強の歴史を持ち、学校法人滋慶学園との契約により専門学校ではCOMグループのみ受講できる講座である。昨年までの受講者数は約7,500名となり、水族館に就職した学生約2,250名、ダイビング約1,100名。アクアショップ約1,850名、ホエールウォッチング、ドルフィンスイム、自然学校など約750名、と80%以上海洋業界に進んでいる。授業は代表菅原先生の他、イルカの行動学、クジラの専門家、自然学校・所長、ドルフィンスイム東京都公認ガイド、カナダのシャチ研究家などその道のプロ主体に約10名強のPACI非常勤講師の特別講義により構成されている。							
【到達目標】							
出席80%以上、テスト70点以上の学生は「環境省登録・環境教育促進法(略称)」に基づく「インタープリター養成講座」受講終了証(PACIカード)を発行する。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	PACIのビジョン・インタープリターとは何か。活動の意義と目的。修得スキルと到達目標を学ぶ。
2回目	野生のイルカ・クジラ写真集の解説、そして贈る言葉。「燃える決意」レポート作成し、発表。(1分間スピーチ)。シラバス・フィールド授業・特別講義の解説。
3回目	3回～10回：フィールド実習「もじ少年自然の家」、テーマ：①海の安全講習、②SDGs実践としてのクリーンアップ作戦、③「スナメリウォッチング」を主体に海遊びレシビの実践。
4回目	もじ少年自然の家・スナメリウォッチング&海あそび&SDGs海辺のクリーンアップ作戦
5回目	もじ少年自然の家・スナメリウォッチング&海あそび&SDGs海辺のクリーンアップ作戦
6回目	もじ少年自然の家・スナメリウォッチング&海あそび&SDGs海辺のクリーンアップ作戦
7回目	もじ少年自然の家・スナメリウォッチング&海あそび&SDGs海辺のクリーンアップ作戦
8回目	もじ少年自然の家・スナメリウォッチング&海あそび&SDGs海辺のクリーンアップ作戦
9回目	もじ少年自然の家・スナメリウォッチング&海あそび&SDGs海辺のクリーンアップ作戦
10回目	もじ少年自然の家・スナメリウォッチング&海あそび&SDGs海辺のクリーンアップ作戦
11回目	もじ少年自然の家・スナメリウォッチング&海あそび&SDGs海辺のクリーンアップ作戦「振り返りレポート作成」
12回目	PACI国際海洋自然観察員協会、非常勤講師の特別講義
13回目	PACI国際海洋自然観察員協会、非常勤講師の特別講義
14回目	「インタープリターをやってみよう」野生のドルフィン・ホエールウォッチングなど、フィールドで何を語るか。解説。PACI・1Star検定試験
15回目	前期の振り返り
準備学習 時間外学習	積極的に自主的にいろいろな活動に参加し、たくさんの感動をすること。興味を持ったことについて、それぞれの方法で自主的に独自に学ぶことを身に付ける。
評価方法	①出席率(60%) ②レポート(20%) ③期末テスト(20%)以上の割合で評価する。
【使用教科書・教材・参考書】	
PACIインタープリター養成講座workbook、写真集「Whale&dolphins」、CNAC(海に学ぶ体験活動協議会)「海あそび安全講座」、「海辺の環境教育プログラム事例集」、「世界に広がるホエールウォッチング」エリック・ホイ特著、PACI発刊、「全国水族館&フィールドガイドブック」菅原茂監修。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	海洋自然観察概論 (Introduction to sustaining Ocean Nature Observation)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	菅原 茂 (他PACIの特別講師)
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	月曜日3・4時限
【授業の学習内容】 インタープリテーション(自然や野生動物のメッセージを伝える)能力を身に付けることを第一の目的とする。 授業内容は環境教育促進法(略称)に基づき、環境省(文部科学省、国土交通省の3省)に登録している「インタープリター入門講座」をベースにしている。水族館関係者、野生動物のフィールド関係者、研究者などPACIの非常勤講師の特別講義をふんだんに、業界の最新情報の収集やキャリアデザイン能力を磨く等幅広い内容で、インタープリターの基礎知識を学ぶ構成となっている。 ※担当教員実務経歴: 明治大学政治経済学部卒。あわしまマリンパーク・総支配人、淡島水族館・館長、NPO法人PACI国際海洋自然観察員協会・代表理事、TCA東京エコ動物海洋専門学校・副校長、NPO法人CNAC海に学ぶ体験活動協議会・理事。							
【到達目標】 日帰り10人程度の少人数の子供や大人を海辺や水族館・博物館などに案内できるインタープリターになることを目標とする。 ＜具体的な目標＞ ①PACI1Star インタープリターのガイドライン8項目について80%以上の達成を目指すこと。 ②PACI 教則本「インタープリター養成講座 Work book」(1Star,2Star兼用の1Star部分)について、80%以上理解をしていること。 ③海に学ぶ体験活動協議会編「海あそびレシビ」環境教育プログラム33件の内、10件以上のアクティビティを子供に指導できること。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	PACIのビジョン・活動目的・目標を理解する。インタープリターとは何か。活動の意義と目的。修得スキルと到達目標。担当講師:菅原
2回目	イルカ・クジラ写真集の解説と贈る言葉。「燃える決意」をレポートし、発表。(1分間スピーチ・レポートを見ずに語る)。シラバス・フィールド授業・特別講義の解説。
3回目	特別講義「三屋智子」カナダ・オルカラボ研究者。世界を驚かせた国際的な野生動物保護・そのロマンを学ぶ。
4回目	特別講義「三屋智子」その2、レポート作成、ワークショップ
5回目	フィールド講習、もじ少年自然の家・西胤所長、もち浜(安全講習、SDGs実践としてのクリーンアップ作戦、海あそび)
6回目	フィールド講習、もじ少年自然の家・西胤所長、もち浜(安全講習、SDGs実践としてのクリーンアップ作戦、海あそび)
7回目	フィールド講習、もじ少年自然の家・西胤所長、もち浜(安全講習、SDGs実践としてのクリーンアップ作戦、海あそび)
8回目	フィールド講習、もじ少年自然の家・西胤所長、もち浜(安全講習、SDGs実践としてのクリーンアップ作戦、海あそび)
9回目	フィールド講習、レポート作成
10回目	インタープリテーションをやってみよう。「セイウチ編」「マッコウクジラ編」ほか
11回目	夏休みに向けて、ワークショップ:担当講師:菅原
12回目	特別講義「篠原正典」(イルカの行動学の大家)から学ぶ、研究とは、行動学とは、「イルカとヒトの観る世界の違い」からどう付き合うかを学ぶ、など。
13回目	同上(レポート作成&ワークショップ)
14回目	「インタープリターをやってみよう」野生のドルフィンウォッチング。何を語るか。解説。PACI・1Star検定試験、担当講師:菅原
15回目	前期のふり返り
準備学習 時間外学習	積極的に自主的にいろいろな活動に参加し、たくさんの感動をすること。興味を持ったことについて、それぞれの方法で自主的に独自に学ぶ。そこで得た知識は体験活動と同様の「知恵」となる。豊かな人生を送る糧となる。
評価方法	①出席率(60%) ②レポート(20%) ③期末テスト(20%)以上の割合で評価する。
【使用教科書・教材・参考書】 PACIインタープリター養成講座workbook、写真集「Whale&dolphins」、CNAC(海に学ぶ体験活動協議会) 「海あそび安全講座」、「海辺の環境教育プログラム事例集」 その他:PACI非常勤講師の予定、フィールドの予定は先方(現地)の都合により変更となることもある。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	海洋哺乳類 I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	岩田 陽子
	(Marine Mammal Science I)	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日2時限
【授業の学習内容】 海洋に生息する哺乳類の分類、行動、生態などについての基礎知識を学ぶ。 ※担当教員実務経験:元株式会社海の中道海洋生態科学館マリンワールドにて飼育スタッフ(海獣課ドルフィントレーナー11年・魚類課2年従事)。 福岡ECO動物海洋専門学校 講師歴18年							
【到達目標】 分類から、行動・生態に繋げ、人に伝えることが出来る様になる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業の進め方 水族館・トレーナーに求められる事
2回目	鯨類 進化・分類
3回目	鯨類の体の仕組み①
4回目	鯨類の体の仕組み②
5回目	鯨類の体の仕組み③
6回目	鯨類の体の仕組み④
7回目	鯨類の体の仕組み⑤
8回目	鯨類の体の仕組み⑥
9回目	鯨脚類 進化・分類
10回目	鯨脚類 体の仕組み①
11回目	鯨脚類 体の仕組み②
12回目	鯨脚類 体の仕組み③
13回目	鯨脚類 体の仕組み④
14回目	評価試験と振り返り
15回目	評価試験解説/まとめ
準備学習 時間外学習	施設見学(水族館だけでなく、動物園やペットショップなど 飼育施設全般) 自然環境の観察(海や河川、森林など)
評価方法	記述試験 80% 授業姿勢 20%
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	海洋哺乳類 I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	岩田 陽子
	(Marine Mammal Science I)	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日2時限
【授業の学習内容】 海洋に生息する哺乳類の分類、行動、生態などについての基礎知識を学ぶ。 ※担当教員実務経験: 元株式会社海の中道海洋生態科学館マリンワールドにて飼育スタッフ(海獣課ドルフィントレーナー11年・魚類課2年従事)。 福岡ECO動物海洋専門学校 講師歴18年							
【到達目標】 分類から、行動・生態に繋げ、人に伝えることが出来る様になる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	環境エンリッチメント
2回目	生物と人の関わり①
3回目	生物と人の関わり②
4回目	捕鯨①
5回目	捕鯨② DVD鑑賞/考察
6回目	捕鯨③
7回目	ラッコ 進化・分類
8回目	ラッコ 体の仕組み①
9回目	ラッコ 体の仕組み②
10回目	ラッコ 体の仕組み③
11回目	ラッコ 体の仕組み④
12回目	ラッコ 飼育①
13回目	ラッコ 飼育②
14回目	後期評価及び振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	施設見学(水族館だけでなく、動物園やペットショップなど 飼育施設全般) 自然環境の観察(海や河川、森林など)
評価方法	記述試験 80% 授業姿勢 20%
【使用教科書・教材・参考書】 配布プリント	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ドルフィントレーニングⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	藤井 勝
	(Dolphin TrainingⅠ)	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	土曜日3時限
【授業の学習内容】							
オペラント条件づけとレスポナデント条件づけを中心に、学習理論の基礎となる用語の理解を深め、水族館等で飼育されている海獣類のトレーニングにおける背景(理論)を学ぶ。							
※担当教員実務経験:北海道大学卒業後、ワールドドルフィンリゾート及びワールド牧場にて3年間、ハンドウイルカ、オキゴンドウ、ハナゴンドウ、ケープペンギン、マゼランペンギン、フンボルトペンギンの飼育業務・ふれあい担当としてトレーナー勤務。その後、パラオ共和国 Dolphins Pacificにて7年間、ハンドウイルカの飼育業務・ふれあい・ドルフィンスイム・ドルフィンダイブ担当としてトレーナー勤務。2023年現在、ドッグトレーナーとして獣医師、グルーマー、トレーナーに犬のハズバンダリートレーニングの実践指導を行っている。							
【到達目標】							
オペラント条件づけ、レスポナデント条件づけ、消去、般化と弁別など、学習における基本的な理論を学ぶ。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	PORTL①
2回目	ラベリングと循環論
3回目	ハズバンダリートレーニング①
4回目	PORTL②
5回目	ハズバンダリートレーニング②
6回目	正/負(環境の変化)①
7回目	PORTL③
8回目	正/負(環境の変化)②
9回目	強化/弱化(行動の増減)①
10回目	PORTL④
11回目	強化/弱化(行動の増減)②
12回目	行動随伴性と三項随伴性
13回目	前期評価試験対策授業
14回目	前期評価試験と振り返り
15回目	総括
準備学習 時間外学習	授業中に適宜課題を与える。授業内容理解し適宜メモを取る。
評価方法	評価の割合は筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:なし 参考書:Animal Training (Ken Ramirez) 行動分析学入門(産業図書)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ドルフィントレーニングⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	藤井 勝
	(Dolphin TrainingⅠ)	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	土曜日3時限
【授業の学習内容】							
オペラント条件づけとレスポナデント条件づけを中心に、学習理論の基礎となる用語の理解を深め、水族館等で飼育されている海獣類のトレーニングにおける背景(理論)を学ぶ。							
※担当教員実務経験:北海道大学卒業後、ワールドドルフィンリゾート及びワールド牧場にて3年間、ハンドウイルカ、オキゴンドウ、ハナゴンドウ、ケープペンギン、マゼランペンギン、フンボルトペンギンの飼育業務・ふれあい担当としてトレーナー勤務。その後、パラオ共和国 Dolphins Pacificにて7年間、ハンドウイルカの飼育業務・ふれあい・ドルフィンスイム・ドルフィンダイブ担当としてトレーナー勤務。2023年現在、ドッグトレーナーとして獣医師、グルーマー、トレーナーに犬のハズバンダリートレーニングの実践指導を行っている。							
【到達目標】							
オペラント条件づけ、レスポナデント条件づけ、消去、般化と弁別など、学習における基本的な理論を学ぶ。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	正の弱化の副作用①
2回目	PORTL⑤
3回目	正の弱化の副作用②
4回目	消去
5回目	般化/弁別①
6回目	般化/弁別②
7回目	シェイピング①
8回目	PORTL⑥
9回目	シェイピング②
10回目	脱感作①
11回目	脱感作②
12回目	PORTL⑦
13回目	後期試験対策授業
14回目	後期評価試験と振り返り
15回目	総括
準備学習 時間外学習	授業中に適宜課題を与える。授業内容理解し適宜メモを取る。
評価方法	評価の割合は筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:なし 参考書:Animal Training (Ken Ramirez) 行動分析学入門(産業図書)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ドルフィントレーニング演習	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
	(Dolphin Training exercises)	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	集中講義
【授業の学習内容】 イルカ関連施設を訪れ、各施設ならではのプログラム・トレーニング・飼育健康管理等を学び、様々な視点からトレーナー像を考える。 ※担当教員実務経験：各施設における現役トレーナーより指導いただく。							
【到達目標】 各施設におけるステージ、設備、演出方法の違い、プログラム・ドルフィントレーニングの特徴等を理解し、それぞれの魅力を見出し自身のドルフィントレーナー像を考えることが出来る。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	事前学習①-1/訪問施設を調べる
2回目	事前学習①-2/訪問施設の発表
3回目	施設見学①-1
4回目	施設見学①-2
5回目	施設見学①-3
6回目	施設見学①-4
7回目	施設見学①-5
8回目	振り返り①/訪問施設レポート作成及び班に分かれてテーマ毎の発表
9回目	事前学習②-1/訪問施設を調べる
10回目	事前学習②-2/訪問施設の発表
11回目	施設見学②-1
12回目	施設見学②-2
13回目	施設見学③-3
14回目	施設見学④-4
15回目	振り返り②/訪問施設レポート作成及び班に分かれてテーマ毎の発表
準備学習 時間外学習	事前学習として各施設を調べ特徴・魅力などをまとめておくこと。
評価方法	レポート、発表：100%
【使用教科書・教材・参考書】 水族館・イルカのふれあい施設のHP、パンフレット、SNSなど 各施設が発表している論文など	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ドルフィントレーニング演習 (Dolphin Training exercises)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	集中講義
【授業の学習内容】 イルカ関連施設を訪れ、各施設ならではのプログラム・トレーニング・飼育健康管理等を学び、様々な視点からトレーナー像を考える。 ※担当教員実務経験：各施設における現役トレーナーより指導いただく。							
【到達目標】 各施設におけるステージ、設備、演出方法の違い、プログラム・ドルフィントレーニングの特徴等を理解し、それぞれの魅力を見出し自身のドルフィントレーナー像を考えることが出来る。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	事前学習③-1/訪問施設を調べる
2回目	事前学習③-2/訪問施設の発表
3回目	施設見学③-1
4回目	施設見学③-2
5回目	施設見学③-3
6回目	施設見学③-4
7回目	施設見学③-5
8回目	振り返り③/訪問施設レポート作成及び班に分かれてテーマ毎の発表
9回目	事前学習④-1/訪問施設を調べる
10回目	事前学習④-2/訪問施設の発表
11回目	施設見学④-1
12回目	施設見学④-2
13回目	施設見学④-3
14回目	施設見学④-4
15回目	振り返り④/訪問施設レポート作成及び班に分かれてテーマ毎の発表
準備学習 時間外学習	事前学習として各施設を調べ特徴・魅力などをまとめておくこと。
評価方法	レポート、発表：100%
【使用教科書・教材・参考書】 水族館・イルカのふれあい施設のHP、パンフレット、SNSなど 各施設が発表している論文など	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	水槽管理 (Aquarium Management)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田中 侑弥
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日4時限
【授業の学習内容】 自然界と飼育下での環境の違いを理解し、アクアリウムにおける濾過・水質・機材等に関する知識を深め、水生生物の飼育方法を学ぶ。 ※担当教員実務経験：水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事する。							
【到達目標】 ①動物に関わる法律や、水族館の仕事・役割について理解する。 ②淡水生物・海洋生物それぞれの飼育方法の違いを理解する。 ③アクアリウム用品や機材の扱い方を理解する。 ④濾過システムを理解し、水槽の立ち上げや日々のメンテナンスが行えるようにする。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション、シラバス説明
2回目	生物に関する法律と観賞魚の歴史について
3回目	水質に関する基礎知識と水の濾過について①
4回目	水質に関する基礎知識と水の濾過について②
5回目	アクアリウムにて扱われる水生生物の種類①
6回目	アクアリウムにて扱われる水生生物の種類②
7回目	アクアリウムにて扱われる水生生物の種類③
8回目	淡水生物と海洋生物の違い
9回目	水生生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法①
10回目	水生生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法②
11回目	水生生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法③
12回目	水生生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法④
13回目	期末試験範囲の振り返り
14回目	期末試験と振り返り
15回目	期末試験返却、前期まとめ
準備学習 時間外学習	アクアリウム専門誌並び、図鑑、飼育本等。 また自宅やアクア実習室内等において水槽メンテナンスを行うなど、自主的に水槽の日常管理に従事するとなお良し。
評価方法	■筆記試験：80% ■授業内態度・出席率：20%
【使用教科書・教材・参考書】 配布テキスト、PC	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	水槽管理	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田中 侑弥
	(Aquarium Management)	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日4時限
【授業の学習内容】							
自然界と飼育下での環境の違いを理解し、アクアリウムにおける濾過・水質・機材等に関する知識を深め、水生生物の飼育方法を学ぶ。 ※担当教員実務経験:水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事する。							
【到達目標】							
①動物に関わる法律や、水族館の仕事・役割について理解する。 ②淡水生物・海洋生物それぞれの飼育方法の違いを理解する。 ③アクアリウム用品や機材の扱い方を理解する。 ④濾過システムを理解し、水槽の立ち上げや日々のメンテナンスが行えるようにする。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	水生生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑤
2回目	水生生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑥
3回目	水生生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑦
4回目	水生生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑧
5回目	水生生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑨
6回目	水生生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑩
7回目	水槽の立ち上げと日常管理①
8回目	水槽の立ち上げと日常管理②
9回目	水槽の立ち上げと日常管理③
10回目	大型施設の日常管理における注意点
11回目	水族館資料鑑賞
12回目	魚の病気・治療方法について
13回目	期末試験範囲の振り返り
14回目	期末試験と振り返り
15回目	期末試験返却、前期まとめ
準備学習 時間外学習	アクアリウム専門誌並び、図鑑、飼育本等。 また自宅やアクア実習室内等において水槽メンテナンスを行うなど、自主的に水槽の日常管理に従事するとお話し。
評価方法	■筆記試験:80% ■授業内態度・出席率:20%
【使用教科書・教材・参考書】	
配布テキスト、PC	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	水族館総合演習	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	株式会社海の中道海洋生態科学館 飼育員
	(Comprehensive Aquarium Studies)	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日1時限
【授業の学習内容】							
水族館の社会的役割、水・海水の特性、海水の循環、生物採集に関する関連法律、水族館展示技法、病気の診断と治療などの水族館の基礎知識を座学で学び、フィールド調査では調査、観察、記録方法を楽しむ学び、得られた結果より考察する力を見につける。							
※担当教員実務経験：株式会社海の中道海洋生態科学館、マリンワールド海の中道の飼育員が授業を担当。							
【到達目標】							
水族館の社会的使命を理解し、即戦力として現場で求められる知識・技術を学ぶ。 また年間4回のフィールド調査を通じて、調査技法、生物採集方法、採集された生物の種同定、保全活動を実践しながら身に着ける。 フィールド調査は下記の点を重点項目とする。 ①海浜部：曳網採集、アマモ移植・保全活動 ②環境共生の森：ニッポンバラタナゴ、水生植物、水生昆虫・カスミサンショウウオ保全活動、水田稲作							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	水族館の役割を理解し、説明できる。
2回目	水・海水の特性、循環の仕組み、水温躍層を理解し説明できる。
3回目	1回目 フィールド調査 アマモ場調査(曳網・採集生物の種同定・アサリ採集計測) ニッポンバラタナゴ保全活動(曳網による外来種駆除・水生植物管理・水生昆虫調査・カスミサンショウウオ保全地管理)
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	展示生物の採集・輸送方法を説明できる。
8回目	フィールド演習を振り返り、海水の循環を説明できる。
9回目	2回目 フィールド演習 アマモ場調査(曳網・採集生物の種同定・アサリ採集計測) ニッポンバラタナゴ保全活動(曳網による外来種駆除・水生植物管理・水生昆虫調査・カスミサンショウウオ保全地管理)
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	前期授業のまとめ
14回目	前期評価試験及び振り返り
15回目	調査研究活動の実践例を学び、説明できるようになる。
準備学習 時間外学習	・水族館が担う4つの役割を理解し、各園館の取り組みを調べる。 ・各授業の内容について、各自で復習を行い身につける。
評価方法	授業態度 20% 筆記試験 80%
【使用教科書・教材・参考書】	
新・飼育ハンドブック水族館編テキスト	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	水族館総合演習	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	株式会社海の中道海洋生態科学館 飼育員
	(Comprehensive Aquarium Studies)	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日1時限
【授業の学習内容】 水族館の社会的役割、水・海水の特性、海水の循環、生物採集に関する関連法律、水族館展示技法、病気の診断と治療などの水族館の基礎知識を座学で学び、フィールド調査では調査、観察、記録方法を楽しむ学び、得られた結果より考察する力を見につける。 ※担当教員実務経験：株式会社海の中道海洋生態科学館、マリンワールド海の中道の飼育員が授業を担当。							
【到達目標】 水族館の社会的使命を理解し、即戦力として現場で求められる知識・技術を学ぶ。 また年間4回のフィールド調査を通じて、調査技法、生物採集方法、採集された生物の種同定、保全活動を実践しながら身に着ける。 フィールド調査は下記の点を重点項目とする。 ①海浜部：曳網採集、アマモ移植・保全活動 ②環境共生の森：ニッポンバラタナゴ、水生植物、水生昆虫・カスミサンショウウオ保全活動、水田稲作							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	水族館での繁殖の取り組みについて理解し、説明できる。
2回目	水族館での病気と治療について理解し、説明できる。
3回目	3回目 フィールド演習 アマモ場調査(曳網・採集生物の種同定・アサリ採集計測) ニッポンバラタナゴ保全活動(曳網による外来種駆除・水生植物管理・水生昆虫調査・カスミサンショウウオ保全地管理)
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	水族館での飼育・展示技法について理解し、説明できる。
8回目	水族館での展示・解説方法について理解し、説明できる。
9回目	4回目 フィールド演習 アマモ場調査(曳網・採集生物の種同定・アサリ採集計測) ニッポンバラタナゴ保全活動(曳網による外来種駆除・水生植物管理・水生昆虫調査・カスミサンショウウオ保全地管理)
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	後期授業のまとめ
14回目	後期評価試験および振り返り
15回目	水族館の社会・教育活動について理解し、説明できる。
準備学習 時間外学習	・水族館が担う4つの役割を理解し、各園館の取り組みを調べる。 ・各授業の内容について、各自で復習を行い身につける。
評価方法	授業態度 20% 筆記試験 80%
【使用教科書・教材・参考書】 新・飼育ハンドブック水族館編テキスト	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	水族館概論 (Introduction to the Aquarium)	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	山田重隆
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日 3時限
【授業の学習内容】 日本動物園水族館協会が発行するテキストを基に水族館の4つの役割を理解し、「概論」「分類」「生理」「生態」「輸送」「保存」「繁殖」「餌料」「病気」「収集」「輸送」「保存」「展示」「教育」「広報」「施設」「危機管理」について、水族館運営に必要な不可欠な基礎知識を習得する。 ※担当教員実務経験：水族館うみたまごにて、学芸員、飼育担当として37年間勤務							
【到達目標】 水族館における動物飼育知識や運営面での基本を理解し、主要な項目について説明出来るようになる。 また、水族館の採用試験に対応出来る学力を培う。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション、新・飼育ハンドブック水族館編3「概論」①
2回目	新・飼育ハンドブック水族館編3「概論」②
3回目	新・飼育ハンドブック水族館編3「分類」①
4回目	新・飼育ハンドブック水族館編3「分類」②
5回目	新・飼育ハンドブック水族館編3「生理」
6回目	新・飼育ハンドブック水族館編3「生態」①
7回目	新・飼育ハンドブック水族館編3「生態」②
8回目	新・飼育ハンドブック水族館編1「繁殖」①
9回目	新・飼育ハンドブック水族館編1「繁殖」②
10回目	新・飼育ハンドブック水族館編1「餌料」①
11回目	新・飼育ハンドブック水族館編1「餌料」②
12回目	新・飼育ハンドブック水族館編1「病気」①
13回目	新・飼育ハンドブック水族館編1「病気」②
14回目	評価試験及び振り返り
15回目	前期の振り返り及び解説
準備学習 時間外学習	新・飼育ハンドブックの次回授業範囲を熟読し、疑問・不明点などを明確にして授業に臨む。
評価方法	期末試験80% 授業に臨む姿勢及び出席20%
【使用教科書・教材・参考書】 改訂版 新・飼育ハンドブック水族館編1～5	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	水族館概論 (Introduction to the Aquarium)	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	山田重隆
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日 3時限
【授業の学習内容】 日本動物園水族館協会が発行するテキストを基に水族館の4つの役割を理解し、「概論」「分類」「生理」「生態」「輸送」「保存」「繁殖」「餌料」「病気」「収集」「輸送」「保存」「展示」「教育」「広報」「施設」「危機管理」について、水族館運営に必要な不可欠な基礎知識を習得する。 ※担当教員実務経験：水族館うみたまごにて、学芸員、飼育担当として37年間勤務。							
【到達目標】 水族館における動物飼育知識や運営面での基本を理解し、主要な項目について説明出来るようになる。 また、水族館の採用試験に対応出来る学力を培う。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	新・飼育ハンドブック水族館編5 「施設・危機管理」①
2回目	新・飼育ハンドブック水族館編5 「施設・危機管理」②
3回目	新・飼育ハンドブック水族館編5 「施設・危機管理」③
4回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「収集」①
5回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「収集」②
6回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「輸送」①
7回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「輸送」②
8回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「保存」①
9回目	新・飼育ハンドブック水族館編2 「保存」②
10回目	新・飼育ハンドブック水族館編4 「展示」①
11回目	新・飼育ハンドブック水族館編4 「展示」②
12回目	新・飼育ハンドブック水族館編4 「展示」③
13回目	新・飼育ハンドブック水族館編4 「広報」
14回目	評価試験及び振り返り
15回目	後期の振り返り及び解説
準備学習 時間外学習	新・飼育ハンドブックの次回授業範囲を熟読し、疑問・不明点などを明確にして授業に臨む。
評価方法	期末試験80% 授業に臨む姿勢及び出席20%
【使用教科書・教材・参考書】 改訂版 新・飼育ハンドブック水族館編1～5	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	船舶免許対策講座 2級・特殊 (Boat Operator II and Personal Water Craft Operator National Examination Course)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	株式会社ボート免許センター
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日5時限
【授業の学習内容】 広い水域での生物探査・観察ができるようになるために必要な、小型船舶に対する知識を学ぶ。 小型船舶操縦士2級・特殊(水上オートバイ)免許取得を目指す。 ※担当教員実務経験:株式会社ボート免許センター。(設立2006年3月24日) 事業内容/一級・二級・二級第一号限定・特殊小型船舶教習所(九小教第5号)・小型船舶操縦免許証更新 ・失効再交付講習機関(操更講第17号・操失講第17号)損害保険代理業務							
【到達目標】 小型船舶操縦士2級・特殊(水上オートバイ)免許取得。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション/取得免許に関して
2回目	学科教本 P13～P42 小型船舶の船長の心得および遵守事項(水上交通の特性、小型船舶の船長の心得)
3回目	学科教本 P43～P59 小型船舶の船長の心得および遵守事項(小型船舶の船長の遵守事項)
4回目	学科教本 P61～P69 交通の方法(海上衝突予防法/基本となる航法)・小テスト①
5回目	学科教本 P70～P84 交通の方法(海上衝突予防法/灯火・形象物・信号、港則法)
6回目	学科教本 P85～P102 交通の方法(海上交通安全法、湖川・特定水域での交通の方法) 運航(操縦の基本)
7回目	学科教本 P103～P116 運航(出入港・係船・錨泊/船体の安定・トリム/狭視界時の航行/曳航)・小テスト②
8回目	学科教本 P117～P132 運航(航海の基礎)
9回目	学科教本 P133～P143 運航(船体・設備・装備品、ロープの取り扱い/発航前の点検)
10回目	学科教本 P144～P164 運航(機関の取り扱い)
11回目	学科教本 P165～P183 運航(気象・海象、荒天時の操縦と避難、事故対策)
12回目	補習・練習問題・小テスト③
13回目	免許試験①
14回目	期末評価及び振り返り(免許試験②)
15回目	免許試験③
準備学習 時間外学習	授業ごとの学科教本の予習・復習を行うこと。 学科試験「過去問題」を使用しての反復学習をすること。
評価方法	定期試験の結果(50%)、小テスト(30%)、授業態度(20%)を加味して評価する。
【使用教科書・教材・参考書】 学科教本	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	船舶免許対策講座 1級 (Boat Operator I National Examination Course)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	株式会社ボート免許センター
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日5時限
【授業の学習内容】 広い水域での生物探査・観察ができるようになるために必要な、小型船舶に対する知識を学ぶ。 小型船舶操縦士1級免許取得を目指す。 ※担当教員実務経験:株式会社ボート免許センター。(設立2006年3月24日) 事業内容/一級・二級・二級第一号限定・特殊小型船舶教習所(九小教第5号)・小型船舶操縦免許証更新 ・失効再交付講習機関(操更講第17号・操失講第17号)損害保険代理業務							
【到達目標】 小型船舶操縦士1級免許取得。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション
2回目	学科教本 P7～58 上級運航Ⅰ(航海計画/救命設備/通信設備/気象・海象/荒天航法・海難防止)
3回目	学科教本 P59～86 上級運航Ⅱ(機関の保守整備/機関故障時の対処)
4回目	補習・練習問題
5回目	海図①
6回目	海図②
7回目	海図③
8回目	海図④・潮汐表の利用法
9回目	補習・練習問題
10回目	補習・練習問題
11回目	免許試験①
12回目	免許試験②
13回目	期末評価及び振り返り(免許試験③)
14回目	免許試験④
15回目	免許試験⑤
準備学習 時間外学習	授業ごとの学科教本の予習・復習を行うこと。 学科試験「過去問題」を使用しての反復学習をすること。
評価方法	定期試験の結果(70%)、授業態度(30%)を加味して評価する。
【使用教科書・教材・参考書】 学科教本	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ダイビング演習	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	高濱 香
	(Scuba Diving)	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日3時限
【授業の学習内容】 潜水計画から海況判断、トラブル回避など、ダイビングを安全に楽しむために必要な知識を学科講習で身につけ、海でスキルを身につける。 ※担当教員実務経験:PADIコースディレクターであり、ダイビングショップ『DIVE ESUCH』代表。 オープンウォーターダイバー22年、潜水士22年、ライフセービング13年。							
【到達目標】 PADIオープン・ウォーター・ダイバーCカード取得							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション／アンケート及び、参加前書類作成
2回目	オープン・ウォーター テキスト第1章
3回目	オープン・ウォーター テキスト第2・第3章
4回目	オープン・ウォーター テキスト第4・第5章
5回目	オープン・ウォーター 模擬テスト
6回目	オープン・ウォーター ライセンス学科試験
7回目	オープン・ウォーター 器材紹介・セッティング紹介
8回目	オープン・ウォーター ダイビング演習①ライセンス取得講習(終日)
9回目	オープン・ウォーター ダイビング演習②ライセンス取得講習(終日)
10回目	オープン・ウォーター ダイビング演習③ライセンス取得講習(終日)
11回目	オープン・ウォーター ダイビング演習④ライセンス取得講習(終日)
12回目	オープン・ウォーター ダイビング演習⑤ライセンス取得講習(終日)
13回目	オープン・ウォーター ダイビング演習⑥ライセンス取得講習(終日)
14回目	オープン・ウォーター ダイビング演習⑦ライセンス取得講習(終日)
15回目	オープン・ウォーター ダイビング演習⑧ライセンス取得講習(終日)
準備学習 時間外学習	水泳200mが泳げる体力をつけておくこと。
評価方法	■学校評価基準 筆記試験 70% スキル評価 30% ■ライセンス取得基準 筆記試験 75%以上(ライセンス学科 取得基準) スキル評価 100%(ライセンス実技 取得基準)
【使用教科書・教材・参考書】 PADIオープンウォーターテキスト	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	潜水士対策講座 (Preparation class Diving Examination)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	高濱 香
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日3時限
【授業の学習内容】							
潜水士試験に合格する為に、潜水士の教科書を理解して過去問を解いて試験問題に慣れる。 ※担当教員実務経験:PADIコースディレクターであり、ダイビングショップ『DIVE ESUCH』代表。 オープンウォーターダイバー22年、潜水士22年、ライフセービング13年。							
【到達目標】							
国家試験「潜水士」取得							

授業計画・内容	
1回目	潜水士概要・全体の説明
2回目	潜水業務
3回目	潜水業務 過去問題①
4回目	潜水業務 過去問題②
5回目	送気、潜降及び浮上
6回目	送気、潜降及び浮上 過去問題
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	高気圧障害
9回目	高気圧障害 過去問題①
10回目	高気圧障害 過去問題②
11回目	関係法令
12回目	関係法令 過去問題①
13回目	関係法令 過去問題②
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	潜水士 過去問題
準備学習 時間外学習	使われている用語や仕組みが難しいので、復習が必要。
評価方法	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。
【使用教科書・教材・参考書】	
潜水士テキスト	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	進級課題 (Level Advancement Study)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	熊谷 亮太郎
		授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 学んだ専門知識や技術の集大成として、学習成果が進級に値する実力を修得しているか課題に取り組み、課題の研究発表または実技の披露を行う。							
【到達目標】 学習成果(知識・技術)をパワーポイントやポスター展示、実技披露として発表。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	進級課題とは① ～進級課題の意義や目的・目標を明確にする～
2回目	進級課題とは② ～過去の先輩たちの事例紹介～
3回目	進級課題の進め方 ～発表までの流れやスケジューリングの確認～
4回目	テーマの決定 ～テーマを班内でのディスカッションで探す～
5回目	実践学習① ～自分(班)のテーマに沿って仮説と実証実験～
6回目	実践学習② ～途中経過の報告～
7回目	実践学習③ ～前回のアドバイスを基に発表内容を改良する～
8回目	発表準備① ～パワーポイント作成～
9回目	発表準備② ～パワーポイント作成～
10回目	発表準備③ ～パワーポイント作成～
11回目	発表準備④ ～パワーポイント作成～
12回目	発表準備⑤ ～パワーポイント作成～
13回目	発表①
14回目	発表②
15回目	進級課題の振り返り ～各自(班内)で意見交換、発表～
準備学習 時間外学習	各自(各班)で意見交換を随時行う。 また、もらった意見を次に繋げる学習をすること。
評価方法	・発表内容:80% ・課題への参加度:20%
【使用教科書・教材・参考書】 専門基礎科目テキスト4冊／株式会社 滋慶出版	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	業界研修 (Business internship)	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	随時
専攻名	ドルフントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 学生が目指す業界の企業または、それに準ずる組織・施設・個人等で研修(インターンシップ)を行う。このカリキュラムは業界のプロフェッショナルになるという大きな目標を前に、自身の進路を明確にするとともに各業界施設での「身構え・気構え・心構え」を知り、就職活動とする。 ※担当教員実務経験:研修先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 ・業界へのイメージと現実のギャップを軽減させる。 ・実際の動物業界での研修を通じ、仕事の流れや職場でのコミュニケーションを図ることができるようになる。 ・社会の成り立ち、社会人としてのマナーやルールを実体験で学び身に付ける。 ・自らの「キャリア」をデザインできる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	インターンシップ参加における目的の確認と目標設定
2回目	企業研究、履歴書作成
3回目	インターンシップ参加
4回目	インターンシップ参加
5回目	インターンシップ参加
6回目	インターンシップ参加
7回目	インターンシップ参加
8回目	インターンシップ参加
9回目	インターンシップ参加
10回目	インターンシップ参加
11回目	インターンシップ参加
12回目	インターンシップ参加
13回目	インターンシップ参加
14回目	研修ノートのまとめ、お礼状作成、レポート作成
15回目	報告会
準備学習 時間外学習	・事前に企業研究、インターンシップ先の選定活動 ・インターンシップ後の研修ノートまとめ、レポート作成
評価方法	・研修ノート内容及び提出(80%) ・インターンシップ先企業からの評価表(20%) これらを総合的に判断して評価
【使用教科書・教材・参考書】 キャリアセンターの参考情報	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	特別講義&見学	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
	(Special Lecture)	授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

各業界で活躍で活躍中のプロフェッショナルから豊富な知識や技術、情報を頂くことで、将来のキャリアデザインに役立てる。
学内やオンラインを使用し講義を行い、実際に施設に訪問する。

※担当教員実務経験:訪問先施設にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

- ・動物業界に必要な知識や技術を理解し、身に付ける。
- ・動物業界に必要な人間力を理解し、身に付ける。
- ・これから動物業界で必要となってくる専門性と人間性を知る。
- ・授業、演習、インターンシップに活かすことができる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	特別講義・見学施設の事前学習、まとめ
2回目	特別講義もしくは施設見学
3回目	特別講義もしくは施設見学
4回目	特別講義もしくは施設見学
5回目	特別講義もしくは施設見学
6回目	特別講義もしくは施設見学
7回目	特別講義もしくは施設見学
8回目	レポート作成
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・特別講義内容もしくは見学施設の事前学習 ・講義後もしくは見学後のレポートのまとめ
評価方法	・レポート(100%)

【使用教科書・教材・参考書】

キャリアセンターの参考情報

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	グローバルコミュニケーション (Global Communication)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	ILC国際語学センター
		授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	金曜日 3・5時限、土曜日 1・2時限
【授業の学習内容】 好きな事について話することができる。商品のレビューを読み、書くことができる。 平日、週末のアクティビティについて話することができる。日常のアクティビティについてのレポートを読む、また書くことができる。 道順について尋ねる、また教えることができる。場所についての特徴について読み、書くことができる。 ※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。							
【到達目標】 よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容			
1回目	個人的な情報をたずねる・説明する表現を学ぶ。Be 動詞を学ぶ、復習する。疑問代名詞[What]の使い方を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
2回目	個人的な経歴等のプロフィールを読む・書く。大文字、ピリオドの使い方を学ぶ。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
3回目	「はい」「いいえ」で答える質問における [Is / Are]の使い方を学ぶ。家族について話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
4回目	年齢、誕生日に関する表現を学ぶ言い直すに関する言葉を学ぶ。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
5回目	スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「友達や家族についての情報を比較する」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
6回目	[it is]の使い方を学ぶ。家具について話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
7回目	ホームシェアについてのメールを読む、書く。	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。中間試験。
8回目	「現在形」陳述文を学ぶ (I, you, we)。好きな事について話す。	オンデマンド	中間試験解説、前期後半に向けて
9回目	連絡を取り合う方法について話す。相手の話を聞いていることを示す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
10回目	スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「好きな音楽について」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
11回目	「現在形」疑問文 (yes/no / WH-question)を学ぶ。時間・ルーティンについて話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
12回目	日常のアクティビティについてのレポートを読む、書く。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
13回目	[There (is, are), (a lot, some no)]の使い方を学ぶ。町にある場所について話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
14回目	道順について尋ねる、また教える際に使う表現を学ぶ情報を確認する。	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。
15回目	前期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて
準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。		
評価方法	・小テストの正解率にて評価 (前期小テスト合計30回の正解率＝100%で計算)		
【使用教科書・教材・参考書】			
EVOLVE1			

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	グローバルコミュニケーション	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	ILC国際語学センター
	(Global Communication)	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	金曜日 3・5時限、土曜日 1・2時限
【授業の学習内容】 週末に向けたアウトドア活動の計画を立てることができる。オンラインでの招待状を読み、書くことができる。 過去についての場所や出来事、過去の人について述べるができる。思い出の品についての記事やメールを読む、また書くことができる。 食べた食事について話すことができる。レストランのレビューを読む、また書くことができる。 ※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。							
【到達目標】 よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容			
1回目	「現在進行形」疑問文を学ぶ旅行について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
2回目	最近の出来事についてのブログ記事を読む、書く。	オンデマンド	対面授業と連動
3回目	[Can / Can't] (能力)を使う陳述文・疑問文を学ぶ。自身のスキルや能力について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
4回目	自分の意見を述べる。自分はある仕事の適任者であることを説明する。	オンデマンド	対面授業と連動
5回目	スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「自国民が何が得意かについて話す」	オンデマンド	
6回目	[like to, want to, need to, have to]の使い方を学ぶ。使い分けがわかる旅行計画を立てる。	オンデマンド	対面授業と連動
7回目	旅行ガイドを読む、また場所の説明を書く。	オンデマンド	振り返り。中間試験
8回目	[be going to] (陳述文)の使い方を学ぶ。週末に向けたアウトドア活動の計画について話す。	オンデマンド	中間試験解説、後期後半に向けて
9回目	あることをやらないといけない理由を説明する。	オンデマンド	
10回目	スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「自分の町での楽しい週末を計画し、発表する」	オンデマンド	対面授業と連動
11回目	「過去形」(was / were)の疑問文を学ぶ。色、記憶について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
12回目	思い出の品についての記事やメールを読む、書く。	オンデマンド	対面授業と連動
13回目	「過去形」の陳述文を練習する。スナック、軽食について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
14回目	[so / really] (強調する)の使い方を学ぶ。食べ物・飲み物を注文する。	オンデマンド	振り返り
15回目	後期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて
準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。		
評価方法	・小テストの正解率にて評価 (後期小テスト合計30回の正解率＝100%で計算)		
【使用教科書・教材・参考書】			
EVOLVE1			

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	海外実学研修 (Overseas Practical Training)	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	現地各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	未定
【授業の学習内容】 国際教育の一環として、実際に海外での施設見学、特別講義、自由行動を通し国際性を身に付け、グローバル化する現代社会で活躍できる人材育成を目的とする。 ※担当教員実務経験：海外における現地実務従事者より指導頂く。							
【到達目標】 ・最先端の動物、環境に関わる知識や技術を理解し身に付ける。 ・これからの業界に必要な考え方を理解し身に付ける。 ・世界における日本の立場を理解する。 ・自身のキャリアをデザインする。							

授業計画・内容	
1回目	訪問国、訪問施設を調べまとめる、班ごとに発表する
2回目	訪問国での施設見学、特別講義
3回目	訪問国での施設見学、特別講義
4回目	訪問国での施設見学、特別講義
5回目	訪問国での施設見学、特別講義
6回目	訪問国での施設見学、特別講義
7回目	訪問国での施設見学、特別講義
8回目	訪問国での施設見学、特別講義
9回目	訪問国での施設見学、特別講義
10回目	訪問国での施設見学、特別講義
11回目	訪問国での施設見学、特別講義
12回目	訪問国での施設見学、特別講義
13回目	訪問国での施設見学、特別講義
14回目	研修ノートのまとめ、レポート作成
15回目	海外実学研修の振り返り、発表、まとめ
準備学習 時間外学習	・【事前学習】訪問国、訪問施設を調べまとめる ・【事後学習】訪問施設を研修ノート及びレポートにまとめる
評価方法	・研修ノート、レポート(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去の海外実学研修ノート	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	イベント運営 (Event Management)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	各イベント実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学習成果の発表の場としてのイベントを行い、修得した専門知識や技術を実践する。
企画立案から運営まで学生主体となって実践し、接客力、コミュニケーション力も上げる。

※担当教員：各イベントにおける実務従事者より指導頂く。

【到達目標】

- ・企画立案、運営ができるようになる。
- ・マネジメント(セルフ・チーム・リスク)を理解し、実践できるようになる。
- ・接客を知り、実践できるようになる。
- ・ホスピタリティマインドを理解し、実践できる。
- ・予算管理を実践し習得する。
- ・スケジュールリングを理解し、実践できる。

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	企業からのプレゼンテーション～イベントの概要の共有、スケジュール～
2回目	イベントの企画立案①
3回目	イベントの企画立案②
4回目	企業へのプレゼンテーション
5回目	イベント準備①
6回目	イベント準備②
7回目	実施日～実演、展示、発表～
8回目	まとめ～レポートにまとめ、各班で発表～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・各自、目的に沿った案を考える ・イベント後レポートにまとめる
評価方法	・準備(50%) ・レポート(50%)
【使用教科書・教材・参考書】	
過去のイベント資料	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	特別課外活動 (Club Activities)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	各クラブ顧問
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 学生会活動やクラブ活動を通してチームワークや企画、運営力を養う。							
【到達目標】 ・チームワークを身に付ける。 ・計画性を身に付ける。 ・予算管理を身に付ける。 ・マネジメントを理解し身に付ける。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	各クラブにおける目的の確認
2回目	各クラブ活動を実践
3回目	各クラブ活動を実践
4回目	各クラブ活動を実践
5回目	各クラブ活動を実践
6回目	各クラブ活動を実践
7回目	各クラブ活動を実践
8回目	各クラブ活動を実践
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・日報や日誌、報告書を作成すること。
評価方法	・クラブ活動態度(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 ・各クラブ活動月報、日報、日誌、報告書	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ボランティア活動 (Volunteer Work)	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	ドルフントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 市民社会の形成に貢献するために様々な形のボランティア活動を行う。 ※担当教員：各施設・イベントにおける実務従事者より指導頂く。							
【到達目標】 ・ボランティア活動の目的を理解し、実践することで奉仕する心を身に付ける。 ・社会の中の自分の存在を理解し、社会貢献の意識を持つことができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	プレゼンテーション～主催者からの趣旨説明～
2回目	ボランティア活動
3回目	ボランティア活動
4回目	ボランティア活動
5回目	ボランティア活動
6回目	ボランティア活動
7回目	ボランティア活動
8回目	まとめ～レポート、報告会～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	実施前後のレポートのまとめを行うこと。
評価方法	レポート(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去のボランティア活動報告書	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	資格取得講座 (Seminar for a Qualification)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	熊谷 亮太郎
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 各専攻で学んだ専門知識や技術の更なるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し、資格取得を目指す。							
【到達目標】 各検定試験、資格試験の合格							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
2回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
3回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
4回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
5回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
6回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
7回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
8回目	資格検定試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	毎回の授業前後の資格検定対策教本の予習、復習を行うこと。
評価方法	資格取得、検定合格(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去の各検定、資格教本	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアプランニングⅡ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	村上 弘志
	(Career Planning Ⅱ)	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日・2時限
【授業の学習内容】 将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識や、気構え・身構え・心構えなどを発揮出来る様になる。							
【到達目標】 ■ 業界に出て即戦力となり得る一般教養を身に付けることが出来る。 ■ 自立型協働社会人として、自ら考え行動し、周りを巻き込むことが出来る。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	キャリアデザイン / オリエンテーション、自己分析
2回目	キャリアデザイン / 就職活動のすすめ①
3回目	キャリアデザイン / 就職活動のすすめ② 社会人基礎力/社会人になる前の基礎知識①
4回目	キャリアデザイン / 就職活動のすすめ③ 社会人基礎力/社会人になる前の基礎知識②
5回目	キャリアデザイン / 就職活動のすすめ④ 社会人基礎力/社会人になる前の基礎知識③
6回目	キャリアデザイン / 就職活動のすすめ⑤ チームマネジメント/学園祭について①
7回目	キャリアデザイン / 合同企業説明会に向けて チームマネジメント/学園祭について②
8回目	キャリアデザイン / 合同企業説明会振り返り チームマネジメント/学園祭について③
9回目	業界研究 / 研修後振り返り
10回目	キャリアデザイン / 夏季休暇に向けて① インターンシップ・就職活動における姿勢①
11回目	キャリアデザイン / 夏季休暇に向けて② インターンシップ・就職活動における姿勢②
12回目	キャリアデザイン / 夏季休暇に向けて③ インターンシップ・就職活動における姿勢③
13回目	キャリアデザイン / 夏季休暇振り返り 活動報告(インターンシップ・就職活動情報共有) スポーツフェスタについて①
14回目	チームマネジメント / スポーツフェスタイベント内容の話し合い(ホスピタリティマインドを学び、チーム力を養う) スポーツフェスタについて②
15回目	キャリアデザイン / 前期振り返り 就職活動状況の確認・活動方針の調整 スポーツフェスタについて③
準備学習 時間外学習	事前課題や調べ学習を行い、授業に臨むこと。
評価方法	1. 授業態度 (30%) 2. 各種レポート、その他提出を求めるもの (50%) 3. 出席 (20%)
【使用教科書・教材・参考書】 ・新社会人の基礎力109(滋慶出版) ・オリジナルPowerPoint	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアプランニングⅡ (Carrier planning-Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	村上 弘志
専攻名	ドルフントレーナー専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日・2時限
【授業の学習内容】							
将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識や、気構え・身構え・心構えなどを発揮出来るようになる。							
【到達目標】							
■業界に出て即戦力となり得る一般教養を身に付けることが出来る。 ■自立型協働社会人として、自ら考え行動し、周りを巻き込むことが出来る。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	キャリアデザイン / 就職活動の現状確認と今後の予定
2回目	キャリアデザイン / 就職活動対策①
3回目	キャリアデザイン / 就職活動対策②
4回目	キャリアデザイン / 就職活動対策③
5回目	キャリアデザイン / 就職活動対策④
6回目	チームマネジメント / 卒業課題制作①、We are ECO①
7回目	チームマネジメント / 卒業課題制作②、We are ECO②
8回目	チームマネジメント / 卒業課題制作③、We are ECO③
9回目	チームマネジメント / 卒業課題制作④、We are ECO④
10回目	チームマネジメント / 卒業課題制作⑤、We are ECO⑤
11回目	チームマネジメント / 卒業課題発表: 評価・振り返り①、We are ECO⑥
12回目	チームマネジメント / 卒業課題発表: 評価・振り返り②、We are ECO⑦
13回目	セルフマネジメント / 2024年振り返り
14回目	セルフマネジメント / 2年間振り返り①
15回目	2年間振り返り②
準備学習 時間外学習	事前課題や調べ学習を行い、授業に臨むこと。
評価方法	1. 授業態度 (30%) 2. 各種レポート、その他提出を求めるもの (50%) 3. 出席 (20%)
【使用教科書・教材・参考書】	
・新社会人の基礎力109(滋慶出版) ・オリジナルPowerPoint	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	プレゼンテーションⅡ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	田代マキ
	presentationⅡ	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日・3時限
【授業の学習内容】 業界に必要な態度、表情、伝え方、学習力、面接力を身に付ける。 ※担当教員: キャリアカウンセラー(技能士2級)、精神保健福祉士、公認心理師、学校関係へのキャリア教育や企業研修を通して社会人基礎力の授業や管理職研修を行い、就職支援からリーダーシップの在り方まで、働く人の心と職場環境を整える活動を展開している。							
【到達目標】 姿勢、立ち居振る舞いの美しさ 明るい表情、好感音、面接力を身に付ける。 わかりやすい伝え方、文章作成ができる。 学習力、復習力を鍛え仕事遂行能力を身に付ける。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	一年次の振り返り 目標設定
2回目	好感音トレーニング 言葉遣い復習
3回目	他己紹介準備 ワンセンテンスワンパーソン他己紹介の意義
4回目	他己紹介 三点評価 モデリングを身に付ける。
5回目	他己紹介 三点評価
6回目	面接練習 立ち居振る舞い
7回目	面接練習 自分の強み 経験を振り返り
8回目	面接練習 1対1
9回目	面接練習三対三
10回目	集団面接
11回目	小論文の書き方 小論文の課題「面接練習自己分析」
12回目	小論文課題発表 授業内提出
13回目	仕事遂行能力ワーク
14回目	前期評価テスト
15回目	前期の振り返り
準備学習 時間外学習	課題により準備学習あり 日常からニュースや本を読む習慣を身に付け、面接力、小論文の対応力の準備をする。
評価方法	参加態度:50% 傾聴力:30% 筆記試験:20%
【使用教科書・教材・参考書】 講師オリジナルテキスト	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	プレゼンテーションⅡ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	田代マキ
	presentationⅡ	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日・3時限
【授業の学習内容】 業界に必要な態度、表情、伝え方、学習力、面接力を身に付ける。 ※担当教員: キャリアカウンセラー(技能士2級)、精神保健福祉士、公認心理師、学校関係へのキャリア教育や企業研修を通して社会人基礎力の授業や管理職研修を行い、就職支援からリーダーシップの在り方まで、働く人の心と職場環境を整える活動を展開している。							
【到達目標】 姿勢、立ち居振る舞いの美しさ 明るい表情、好感音、面接力を身に付ける。 わかりやすい伝え方、文章作成ができる。 学習力、復習力を鍛え仕事遂行能力を身に付ける。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	後期目標プレゼンテーション
2回目	性格の作られ方
3回目	効果的な質問の仕方
4回目	グループワーク課題解決力
5回目	言語コミュニケーションワーク
6回目	非言語的コミュニケーションワーク
7回目	中間評価
8回目	一般常識仕事遂行ワーク
9回目	リフレーミングとポジティブシンキング
10回目	PDCAサイクル日常編
11回目	PDCAサイクルプレゼンテーション授業編
12回目	仕事遂行力ワーク 総集編
13回目	二年間プレゼンテーション振り返り発表
14回目	前期評価テスト
15回目	前期の振り返り
準備学習 時間外学習	課題により準備学習あり 日常からニュースや本を読む習慣を身に付け、面接力、小論文の対応力の準備をする。
評価方法	参加態度: 50% 傾聴力: 30% 筆記試験: 20%
【使用教科書・教材・参考書】 講師オリジナルテキスト	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	社会人基礎力 (A member of society skills)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	榎本 美和子
専攻名	ドルフントレーナー専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日・4時限
【授業の学習内容】 社会人として大切なことを理解し、ビジネスマナー・コミュニケーションスキル・規律性・人への配慮を学ぶ。 ※担当教員実務経験: 航空・旅行業界にて接客業を経験後、接客マナーの講義に従事。							
【到達目標】 ・社会人として必要なスキル(ビジネスマナー・コミュニケーションスキル・規律性)を身に付け行動できるようにする。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業ガイダンス / 自己紹介 / 学生と社会人の違いについて
2回目	ビジネスマナー / 報・連・相の仕方 ロープレ
3回目	社会人としての規律性について
4回目	ビジネスマナー / お辞儀・来客応対・名刺交換 ロープレ
5回目	より良い人間関係の構築のためのコミュニケーション・傾聴力を身に付ける
6回目	グループディスカッション
7回目	接客におけるケース問題演習
8回目	プレゼンテーション / クラスメイトをプレゼンテーション
9回目	ビジネスマナー / 好感の持たれる立ち居振る舞い
10回目	文書作成
11回目	グループディスカッション
12回目	ストレスコントロール力を身に付ける
13回目	職場においての対人相手の気持ちを汲む
14回目	評価試験および振り返り
15回目	前期のまとめ
準備学習 時間外学習	普段の生活から、好感の持たれる態度(言葉遣い・マナー・配慮)を意識してください。
評価方法	・試験: 80% ・授業内評価(ロープレ・グループディスカッション・プレゼンなど): 20%
【使用教科書・教材・参考書】 講師オリジナル資料	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	演出効果基礎 (General Statements on production effects)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	甲斐 和幸
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日4時限
【授業の学習内容】 ショー運営における映像音響機器の用途目的と使用方法について。 ※担当教員実務経験:水族館マリンワールドのリニューアルからの映像音響システムの構築管理、水族館うみたまごのオープン時映像音響コンサルティングなどに携わる。							
【到達目標】 現場での映像音響機器の運用と、より効率的なショーの提案ができる。(前期音響)							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	水族館の建物の構造特性と音響、照明、映像
2回目	イルカショーにおける音響、照明、映像の役割
3回目	ショーにおける音響について PAとは?
4回目	マイクの種類と特性、周波数について
5回目	ミキサーとはどういう役割か
6回目	アンプの種類と役割、スピーカーの特性と機能
7回目	使ってみよう、マイク、アンプ、ミキサーをつないで音が出るように
8回目	九州放送機器展見学前解説
9回目	九州放送機器展見学 (いろいろな機材を見学し用途に合った選択ができるように)
10回目	九州放送機器展見学 (いろいろな機材を見学し用途に合った選択ができるように)
11回目	九州放送機器展見学 (いろいろな機材を見学し用途に合った選択ができるように)
12回目	九州放送機器展見学 (いろいろな機材を見学し用途に合った選択ができるように)
13回目	放送機器展解説とレポート発表
14回目	音楽と著作権について
15回目	前期まとめ(音響全般)課題実施
準備学習 時間外学習	日常において、音響や映像ががどうい効果を持っているかを意識して行動
評価方法	授業態度(50%)、知識習得度(50%)授業時の設問に対する回答および課題にて理解度
【使用教科書・教材・参考書】 事例写真、現場見学等	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	演出効果基礎 (General Statements on production effects)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	甲斐 和幸
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日 4時限
【授業の学習内容】 照明設備、映像設備の種類と特性について ※担当教員実務経験:水族館マリンワールドのリニューアルからの映像音響システムの構築管理、水族館うみたまごのオープン時映像音響コンサルティングなどに携わる。							
【到達目標】 現場での問題点が把握でき、より効率的なショーの提案ができる。(後期映像、照明)							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	映像の役割と環境ごとの機器選択について
2回目	映像効果と照明、照明の種別
3回目	その他ショーで効果的な機器類とは
4回目	イルカアザラシショーにおけるカメラ映像の役割と機種構成
5回目	サインージとは
6回目	大型映像の特性と効果、双方向演出のやり方と事例
7回目	マリンワールド見学 実際の展示やショーの中で映像音響がどのように使われているか見学
8回目	マリンワールド見学 実際の展示やショーの中で映像音響がどのように使われているか見学
9回目	マリンワールド見学 実際の展示やショーの中で映像音響がどのように使われているか見学
10回目	見学後解説とレポート
11回目	映像配信の種類と効果
12回目	写真の撮り方と動画撮影について
13回目	テーマ策定し映像作品(動画または静止画)を作ってみよう 校外実習(ベイスайдエリア)
14回目	優秀作品の考察と意見交換(どこがどう良かったか)
15回目	後期まとめ(照明、映像全般)課題実施
準備学習 時間外学習	あらゆる施設での照明、映像の使われ方に気を付けながら行動
評価方法	授業態度(50%)、知識習得度(50%)授業時の設問に対する回答および課題にて理解度
【使用教科書・教材・参考書】 事例写真等、実技演習	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	SDGs (Sustainable Development Goals)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	一般社団法人日本SDGs協会 三浦徹志
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	木曜日1時限

【授業の学習内容】

エス・ディー・ジーズ(SDGs)は、私たちが地球上で生きていくための課題、たくさんのハードルがあります。世界人口(80億人)と穀物・肉類の需給、資源の確保、気象など一国では解決できません。前期はSDGsの目標と各国の様子、後期はSDGsの活動(民間のSDGs経営)を調べましょう。安全に生命を維持するためには住む場所、健康、働ける公正な経済社会が必要。言葉や法律、科学の学習も必須。世界の協力が大切です(国際法、IMFなどの国際機関)。自然環境、湿地や湖沼・森林・熱帯雨林・農地・海洋などを大事にし、熱や水の安定した循環と生物多様性が土台です。温室効果ガス、廃プラ、地震や山火事等の災害、また国際紛争、エネルギー・食糧価格、貧困・飢餓など社会的弱者への対策も。多くの脆弱さ(ぜいじゃくさ:もろさ)を乗り越えるために193の国々が(国連で)17個の目標を宣言・約束しました。それがSDGs「誰一人取り残さない持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」)。授業では文明を3千年遡って考えましょう。暦を作り農業や産業を興しました。一方大量消費、市場取引による富のかたよりの大きくなりました。 ※担当教員実務経験:大学、日本SDGs協会で若者や社会人のSDGs活動の支援に従事

【到達目標】

①SDGsのねらいと行動・アクション、方法を理解する。「国づくり、制度づくり、経済の回転」に興味を持つ。国際会議、国際法「海洋法条約」や「森林原則(UNCED)」「ラムサール条約」「ワシントン条約」などを知る。日本政府が持続可能な社会を目指して《骨太の方針》に掲げるSDGs計画「脱炭素社会の実現。Scope1,2,3」「自然環境・動物保護」「エネルギー基本政策」「人材育成・子育て・若者支援」「食糧安保」など重点政策をチェックし進路にも役立てましょう。②世界は自然、社会、経済という3つの側面からとらえられることを実感する。自然を土台に共同体社会、街や制度・ルールができ、安全に経営し、安心して働き、暮らせることを考えましょう。

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	シラバスの説明。基本解説:SDGsの成り立ちと目的。取り組み方(SDGsコンパス、バックキャストの方法)を紹介。
2回目	歴史とSDGs:博多湾、板付遺跡等から学ぶ3千年前の古代文明と今日までの人間の暮らし。太陽を中心とした暦と農耕。世界の文明
3回目	生活三面とSDGs:「環境(太陽、水、穀物、土と生き物)」「社会(国家と地方、制度、納税、サービス)」「経済(営業の自由、労働、生産と消費)」
4回目	〔校外演習:博多湾見学・調査〕 九州の文化とSDGs:歴史と役割。自然環境・立地、海の状態。開かれた港湾と交通、都市の発達
5回目	①博多湾調査で得た知見・情報の整理②インターネットで統計データ・数値を収集。貨物、旅客航路・運輸、漁港、観光事業実績
6回目	①博多湾・板付遺跡の小レポート作成:分かったこと、気づいたこと。②レポートの書き方:サンプル指導、項目、記録、章立て、考察
7回目	〈中間テスト〉 レポート完成、発表、提出。〈九州の歴史、地形、交流、サステナブルな文明に触れる〉
8回目	世界とSDGs: 世界の国々の比較(データランキング)文化、経済規模。GDP、人口、石油埋蔵量、貿易量、ジェンダーギャップ等
9回目	世界の国々 ①アフリカ:エジプト共和国、南アフリカ共和国、ガーナ共和国、コートジボワール、スーダン 産業、歴史、都市、政治、文化
10回目	②アフリカ:ケニア共和国、エチオピア連邦、中央アフリカ共和国、ルワンダ共和国、コンゴ共和国
11回目	SDGsゴールの学習:G1.貧困をなくそう G2.飢餓ゼロ:食料安全保障・農業促進 G3.すべての人に健康と福祉を
12回目	③中東(西アジア):シリア共和国、イスラエル国、パレスチナ自治政府、サウジアラビア王国、イラク王国、イラン・イスラーム共和国、アフガニスタン共和国
13回目	④アジア・オセアニア・南アメリカ:フィリピン等、オーストラリア、ベネズエラ共和国、コロンビア、チリ、アルゼンチン、パラグアイ共和国、ブラジル共和国。パナマ、ハイチ
14回目	期末テスト 8-13回で得た知識をもとにレポートを作成する。(その国の問題点。要点の整理と気づき、意見を述べる)
15回目	まとめ レポート提出。学習内容から関心・興味を持ったこと、得た知識、現実の世の中を振り返る。ポイントと理解。
準備学習 時間外学習	授業で出される課題の予習復習
評価方法	筆記試験(レポート):60% 実技試験(授業中の調べ学習、テキストの要点把握と発表の工夫、努力):20% 授業態度(積極性、聴く態度、他の受講生への協力など):20%
【使用教材・参考書】	
「60分でわかる!SDGs超入門」バウト著 功能聡子・佐藤寛監修 技術評論社刊、「世界の国々」朝日新聞出版編著、「これでわかる!SDGs」(株)大創産業編集発行 「地球環境問題がよくわかる本」浦野紘平他著オーム社	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	SDGs (Sustainable Development Goals)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	一般社団法人日本SDGs協会 三浦徹志
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	木曜日1時限
【授業の学習内容】							
後期は、SDGsのビジネスチャンス(機会)や具体的な活動例をみていき、実践を考えましょう。2015年国連決議「2030アジェンダ」には、人権や持続的経済成長について述べられています。実際にSDGsを行うのは営利企業や学校、病院、自治体など公益的セクター、または家庭や個人です。これらが長期的な視点で、収益を求めながらも同時に社会的課題を事業に取り入れ、環境負荷(Co2排出など)を減らす工夫をしたり、働き方を明るくフェアにする努力をすることでSDGsの各目標に近づこうとします。また経済産業省など国の政策(EVへのグリーン補助金等)のチェックなども必要です。SDGsは「人は生まれながらにして人権をもち、平等に幸福を追求する権利を付与されている」という考え方に立って「将来の世代へ続く豊かさ、低炭素社会の適度な経済成長」を残します。具体例として地域再生や町おこし、産業のゼロカーボン活動の事例等を調べましょう。長期的な経済成長を目指すサステナブル経営と資本市場の仕組み(お金の出資、ESG投資、コーポレートガバナンス、責任投資原則PRIなど)にも触れましょう。 ※担当教員実務経験:日本SDGs協会理事、元大阪経済大学経営学部教授							
【到達目標】							
学んだSDGsの知識、理解をノートにまとめ、整理し、自身のSDGs計画として発表できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	予定説明 国連2030アジェンダとSDGs ゴール8 経済成長と働きがい。事例:F県M製作所 地元材料でチョコレート製造
2回目	経済とSDGs: 長期的成長の経営 PRI責任投資原則、ESG投資 G9 産業育成・技術イノベーション 石川県K工業 中古エンジン再生
3回目	経済とSDGs: G9 産業育成・技術イノベーション サプライチェーン全体の脱Co2排出 例:F協同組合、A金属加工のCo2見える化
4回目	経済とSDGs: G 17.パートナーシップ 例:沖縄県K協同組合 離島の産業振興、過疎防止、三重県I町野遊びプロジェクト
5回目	経営とSDGs: G 17.パートナーシップ 例:徳島県A株式会社 空き家のサテライトオフィス誘致
6回目	経営とSDGs: G4. 質の高い教育確保・生涯学習 例:大阪府Y福祉法人 アート教育による社会参加
7回目	小レポート作成 前半のSDG経営の例から得たことをまとめる。グループ討議。経済のゴール(1, 2, 8, 9, 17)の確認
8回目	後期後半の研究課題について 最終レポートの「わたしのSDGs経営提案」を準備。 教育、人権、平和と公正な制度のゴール(4, 5, 16)」などを確認
9回目	企業経営とSDGs: 5.ジェンダー平等の達成・女性と女兒の能力強化、16.持続可能な開発のための平和促進、法制度、コンプライアンス・インシデント
10回目	SDGs経営: コーポレートガバナンスコード; 短期利益から長期利益へ。競争と市場評価。CSR(社会的責任)CSV(経済・社会の共通価値創造)
11回目	国際協定とSDGs: ESG投資、環境省GHGプラットフォーム COP(コップ)21・IPCC(気候変動枠組) UNDP(国連開発機構) GDP(英国評価)
12回目	研究レポート作成 各自ワーク、PCで情報整理、まとめ。グループコミュニケーション。
13回目	レポート作成 各自ワーク、PCで情報整理、まとめ。プレゼンテーションの練習、ほかの人とコミュニケーションする。
14回目	期末テスト 研究レポート完成、質疑、意見交換 できた人は レポート提出
15回目	後期まとめ 発表 レポート提出
準備学習 時間外学習	授業で出される課題の予習復習
評価方法	筆記試験(レポート)60% 実技試験(授業中の調べ学習、テキストの要点把握と発表の工夫、努力)20% 授業態度(積極性、聴く態度、他の受講生への協力など)20%
【使用教材・参考書】	
「国際連合の基礎知識」 国際連合広報局 関西学院大学出版会、「FACT FULNESS」ハンス・ロスリング 日経BP、「カーボンニュートラルをめぐる世界の潮流 政策・マネー、コーポレートガバナンス」白井さゆり 文真堂、「図解でわかるカーボンリサイクル」エネルギー総合工学研究所 技評社、「SDGs思考」田瀬和夫 impress、「責任ある投資」水口 剛 岩波書店、「地球環境問題がよくわかる本」浦野紘平他 オーム社	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	海洋哺乳類Ⅱ (Marine Mammal ScienceⅡ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	岩田 陽子
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日3時限
【授業の学習内容】							
鯨類・鯨脚類を中心に海洋哺乳類の分類、行動、生態などについての知識理解を深める。 ※担当教員実務経験:元株式会社海の中道海洋生態科学館マリンワールドにて飼育スタッフ(海獣課ドルフィントレーナー11年・魚類課2年従事)。 福岡ECO動物海洋専門学校 講師歴18年							
【到達目標】							
分類から、行動・生態に繋げ、人に伝えることが出来る様になる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	鯨脚類 進化・分類
2回目	鯨脚類 体の仕組み①
3回目	鯨脚類 体の仕組み②
4回目	鯨脚類 体の仕組み③
5回目	鯨脚類 体の仕組み④
6回目	ラッコ 進化・分類
7回目	ラッコ 体の仕組み①
8回目	ラッコ 体の仕組み②
9回目	ラッコ 体の仕組み③
10回目	ラッコ 体の仕組み④
11回目	ペンギン 進化・分類
12回目	ペンギン 体の仕組み①
13回目	ペンギン 体の仕組み②
14回目	前期評価及び振り返り
15回目	評価試験解説/まとめ
準備学習 時間外学習	・施設見学 研修 ・自然観察(海、河川、森林など)
評価方法	記述試験 80% 授業姿勢 20%
【使用教科書・教材・参考書】	
配布プリント	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	海洋哺乳類Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	岩田 陽子
	(Marine Mammal ScienceⅡ)	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日3時限
【授業の学習内容】							
鯨類・鳍脚類を中心に海洋哺乳類の分類、行動、生態などについての知識理解を深める。 ※担当教員実務経験:元株式会社海の中道海洋生態科学館マリンワールドにて飼育スタッフ(海獣課ドルフィントレーナー11年・魚類課2年従事)。 福岡ECO動物海洋専門学校 講師歴18年							
【到達目標】							
分類から、行動・生態に繋げ、人に伝えることが出来る様になる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	カワウソ 進化・分類
2回目	カワウソの体の仕組み①
3回目	カワウソの体の仕組み②
4回目	カワウソの体の仕組み③
5回目	カワウソの体の仕組み④
6回目	ホッキョクグマ 進化・分類
7回目	ホッキョクグマの体の仕組み①
8回目	ホッキョクグマの体の仕組み②
9回目	ホッキョクグマの体の仕組み③
10回目	代表的なヒゲ鯨①
11回目	代表的なヒゲ鯨②
12回目	代表的なヒゲ鯨③
13回目	代表的なヒゲ鯨④
14回目	後期評価及び振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	授業毎の単元にリンクするよう、関連図書・ネット掲載情報をまとめる。 各水族館施設で飼育管理をされている生体に関して調べ、管理方法を知る。
評価方法	記述試験 80% 授業姿勢 20%
【使用教科書・教材・参考書】	
配布プリント	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ドルフィントレーニングⅡ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	藤井 勝
	(Dolphin Training Ⅱ)	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用		曜日・時限	土曜日4時限	
【授業の学習内容】							
オペラント条件づけの正の強化を用いたシェイピング技術をPORTLの実践を通して学ぶ。また学習理論の基礎となる用語の理解を実践を通して深める。 ※担当教員実務経験：北海道大学卒業後、ワールドドルフィンリゾート及びワールド牧場にて3年間、ハンドウイルカ、オキゴンドウ、ハナゴンドウ、ケープペンギン、マゼランペンギン、フンボルトペンギンの飼育業務・ふれあい担当としてトレーナー勤務。その後、パラオ共和国 Dolphins Pacificにて7年間、ハンドウイルカの飼育業務・ふれあい・ドルフィンスイム・ドルフィンダイブ担当としてトレーナー勤務。2023年現在、ドッグトレーナーとして獣医師、グルーマー、トレーナーに犬のハズバンダリートレーニングの実践指導を行っている。							
【到達目標】							
シェイピングを通して行動の原理を学び、行動の機能を分析し、望ましい行動(目標行動)を強化する技術を学ぶ。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	PORTL①
2回目	トレーニングプラン①
3回目	トレーニングプラン②
4回目	PORTL②
5回目	刺激制御①
6回目	刺激制御②
7回目	PORTL③
8回目	DRA/DRI/DRO①
9回目	DRA/DRI/DRO②
10回目	PORTL④
11回目	ハズバンダリートレーニング①
12回目	ハズバンダリートレーニング②
13回目	前期評価試験対策授業
14回目	前期評価試験と振り返り
15回目	総括
準備学習 時間外学習	授業中に適宜課題を与える。授業内容理解し適宜メモを取る。
評価方法	評価の割合は筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書：なし 参考書：Animal Training (Ken Ramirez) 行動分析学入門(産業図書)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ドルフィントレーニングⅡ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	藤井 勝
	(Dolphin Training Ⅱ)	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		専攻名	ドルフィントレーナー専攻			実施方法	対面授業と遠隔授業の併用
【授業の学習内容】							
オペラント条件づけの正の強化を用いたシェイピング技術をPORTLの実践を通して学ぶ。また学習理論の基礎となる用語の理解を実践を通して深める。 ※担当教員実務経歴：北海道大学卒業後、ワールドドルフィンリゾート及びワールド牧場にて3年間、ハンドウイルカ、オキゴンドウ、ハナゴンドウ、ケープペンギン、マゼランペンギン、フンボルトペンギンの飼育業務・ふれあい担当としてトレーナー勤務。その後、パラオ共和国 Dolphins Pacificにて7年間、ハンドウイルカの飼育業務・ふれあい・ドルフィンスイム・ドルフィンダイブ担当としてトレーナー勤務。2023年現在、ドッグトレーナーとして獣医師、グルーマー、トレーナーに犬のハズバンダリートレーニングの実践指導を行っている。							
【到達目標】							
シェイピングを通して行動の原理を学び、行動の機能を分析し、望ましい行動(目標行動)を強化する技術を学ぶ。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	マッチング法則
2回目	PORTL⑤
3回目	バックチェイニング①
4回目	バックチェイニング②
5回目	エラーレスラーニング①
6回目	エラーレスラーニング②
7回目	エラーレスラーニング③
8回目	PORTL⑥
9回目	フォワードチェイニングとバックチェイニング
10回目	連続強化と間欠強化
11回目	強化のタイミングとハズバンダリートレーニング
12回目	PORTL⑦
13回目	後期評価試験対策授業
14回目	後期評価試験と振り返り
15回目	総括
準備学習 時間外学習	授業中に適宜課題を与える。授業内容理解し適宜メモを取る。
評価方法	評価の割合は筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書：なし 参考書：Animal Training (Ken Ramirez) 行動分析学入門(産業図書)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	水生生物研究 (Aquatic Biology)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	淵上 信好
専攻名	ドルフィントレーナー 専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日4、5時限
【授業の学習内容】 ■生体・鮮魚・標本を用い、五感を常に使う実習。 ■最終形(実験のまとめ)から逆算して準備ができるよう指導。 ■魚類の基礎知識から展開した(各論)板書講義。 ■安全が担保できる状態で、博多埠頭における野外実習。 ■メモする習慣を付けるため、ノートチェックは基本的に毎回実施(評価の50%)。 ※担当教員実務経験:国土交通省遠賀川河川環境保全モニター(審議会・検討会・現場指導):1995年～現在継続中。 NPO直方川づくりの会:2006年～現在継続中。							
【到達目標】 ①魚類検索図鑑を3割程度使いこなすことができる。 ②授業後の片付けの重要性が分かり、作業工程を逆算して考える事ができる。 ③実験や作業で使う道具は、必要に応じて自分で考案・制作する意識を持つ事ができる。 ④目的に応じた解剖の段取りができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	①魚類検索スケッチ中級 その1 (プロポーションと部位計測) ③竹ピンセットの作成(金属ピンセットとの用途差異) ⇒2グループ同時進行
2回目	①魚類検索スケッチ中級 その2 (細部スケッチ・計数データ記入) ③竹ピンセットの作成(金属ピンセットとの用途差異) ⇒2グループ同時進行
3回目	②④⑤透明骨格標本 その1(理論・行程・薬品解説) + 「1・2回目」の仕上げ
4回目	②④魚類解剖の基本 その1 (主目的を絞る⇒準備⇒実施⇒修正⇒まとめ⇒片付け) ■⑤透明骨格標本作業継続
5回目	③②④骨格図の模写と魚類の重要な骨摘出(耳石・肩甲骨・烏口骨) ■⑤透明骨格標本作業継続
6回目	①河川地点採集サンプル総合分類河川中上流 その1 (魚類生息環境・出現種一覧表) ■⑤透明骨格標本作業継続
7回目	■評価試験および振り返り + ここまでの中途作業の仕上げ
8回目	②③博多湾・博多埠頭での釣り実習 その1(イベント企画者の立場 + 現場ロープワーク)
9回目	⑤魚類剥製 (概説・作業) + ①検索用サンプルの展翅(ホルマリン標本用として)
10回目	②水産食品加工 (保存食品の条件⇒水分・塩分・油分・pH・脱酸素)
11回目	②③後期に向けた魚類アート入門(魚拓、毛筆画、アクリルペイント、米粉粘土)
12回目	①河川地点採集サンプル総合分類 2 河口域 (魚類生息環境・出現種一覧表)
13回目	②④大型魚類胃内容分析
14回目	■期末試験 + ここまでの補足作業
15回目	学生希望テーマ授業
準備学習 時間外学習	参考図書:日本産魚類検索 一全種の同定 東海大学出版会 その他、本校図書館の魚類関連図書・雑誌を乱読しておくこと。 また、最新情報としてネット情報も活用すること。
評価方法	●中間試験 25% ●期末試験 25% ●ノート点 50%
【使用教科書・教材・参考書】 レジュメおよび資料を配布。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	水生生物研究	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	洲上 信好
	(Aquatic Biology)	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー 専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日4、5時限
【授業の学習内容】 ■前期同様に採集および購入魚類を用いた実習と板書講義の様式とするが、作業の割合を大きくする。 ■同じ場所での別作業となるので、時間設定、道具の使い回し、人の導線など「段取り力」を指導する。 ■実験・作品制作の作業は、正しい失敗を繰り返しながら最後まで仕上げる事を目標とする。 ■魚類から派生する「モノづくり」は、職場でのイベント等における発想・企画・経費計算に役立てたい。 ■研修・早期就職で授業参加困難な学生は、前倒して計画を立て作品提出へと指導して行く。 ※担当教員実務経験:国土交通省遠賀川河川環境保全モニター(審議会・検討会・現場指導):1995年～現在継続中。 NPO直方川づくりの会:2006年～現在継続中。							
【到達目標】 ①魚類から派生する作業について「知っている」ではなく「やったコトがある」で話することができる。 ②実験等において「段取り力」が一定のレベルに達している。 ③様々な製品を見て「用」「強」「美」の観点で評価できるようになる。 ④この授業を通して様々な視点から魚類を語る事ができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	①②魚類麻醉薬・魚病薬の研究 (市販薬品の検討と個人用自作)
2回目	④果物アート (雨プログラムの組み方) ■米粉粘土アート 継続
3回目	①アクリル加工 (透明骨格標本・剥製ケース・野外観察写真撮影用ケースおよび小型水槽) ■米粉粘土アート 継続
4回目	①透明骨格標本 2 (継続作業のまとめとして)
5回目	①②③塗装の基本知識と実践作業 (水性・油性・漆) ■米粉粘土アート 継続
6回目	①②④秋の釣り大会 in 博多埠頭 (学生企画)
7回目	①④発泡スチロール加工 (多用途)+ 竹素材の魚類ハンドリング用品加工 (小型のタモ網ほか)
8回目	①魚類地点調査サンプル総合分類(1年次の「魚類研究」総まとめ)
9回目	①④ルアー製作 ■米粉粘土アート 継続
10回目	①②④魚類デザインのパンケーキ (食育イベントのバリエーションとして)+ 燻製(キャンプメニューとして) ■ルアー製作 継続
11回目	①②③④魚類注連縄づくり (圃場生物環境・葦素材・伝統文化) ■ルアー製作 継続
12回目	①②④UVレジン (義眼・魚類部位を封入したアクセサリ)と剥製
13回目	■作品提出 追い込み (間に合いそうにない学生の分まで協力して作成)
14回目	■作品提出 受付締め切り (早期就職の学生の分まで協力して作成)
15回目	学校備品の修理と教室の大掃除 (感謝をこめて楽しそうに掃除をする)
準備学習 時間外学習	参考図書:日本産魚類検索 一全種の同定― 東海大学出版会 その他、本校図書館の魚類関連図書・雑誌を乱読しておくこと。 また、最新情報としてネット情報も活用すること。
評価方法	●作品提出 50% ●ノート点 50%
【使用教科書・教材・参考書】 レジューメおよび資料を配布。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	繁殖生理学	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	高山 清次
	(Reproductive physiology)	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	遠隔授業			曜日・時限	土曜日5時限
【授業の学習内容】 動物の繁殖のしくみを学び、動物関係の仕事をする時には、この知識が活用できるように、よく理解することを目的とする。 ※担当教員：麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了/獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 教育顧問を務める。							
【到達目標】 この科目を受講した学生が、動物飼育の仕事に携わる時、繁殖生理学の知識を持って、行動できることを目的とする。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	繁殖生理学の概要を把握する。
2回目	繁殖生理学についてホルモンの種類を理解することができる。
3回目	繁殖生理学についてホルモンの作用を理解することができる。
4回目	雄の性成熟について理解することができる。
5回目	雌の性成熟について理解することができる。
6回目	性周期について、発情周期を理解することができる。
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	性周期について、発情周期を理解することができる。各動物の発情周期を理解することができる。
9回目	環境要因について生殖の内分泌に影響する要因を理解することができる①。
10回目	環境要因について生殖の内分泌に影響する要因を理解することができる②。
11回目	卵子と精子の受精現象を理解することができる。
12回目	妊娠について、着床と出産を理解することができる。
13回目	人工授精のメカニズムについて理解することができる。
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。
評価方法	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。
【使用教科書・教材・参考書】 学校図書やインターネットを利用する。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	動物栄養学概論 (Introduction of Nutrition for Animals)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	高山 清次
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	遠隔授業			曜日・時限	土曜日5時限
【授業の学習内容】 動物の食餌に必要な栄養素とその働きについて学ぶとともに、飼料の種類・給餌方法などを理解することを目的とする。 ※担当教員：麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了/獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 教育顧問を務める。							
【到達目標】 動物の食餌に必要な栄養素とその働きについて理解を深め、飼料の種類・給餌方法を適切に判断し、実践することを目的とする。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	栄養と栄養素の説明ができる。
2回目	エネルギー栄養素の説明ができる。
3回目	脂肪・タンパク質の働きが理解できる。
4回目	ビタミンの働きが説明できる。
5回目	ビタミンA・D(脂溶性ビタミン)の説明ができる。
6回目	ビタミンB・C群(水溶性ビタミン)、ミネラルの説明ができる。
7回目	ペットフードの歴史が説明できる。
8回目	中間評価及び振り返り
9回目	ペットフードの種類を説明できる。
10回目	ペットフードの目的別分類が実践できる。
11回目	家庭用食材からのペットフードの作り方を理解できる。
12回目	動物にとっての魚肉、乳製品、玉ねぎの害について理解できる。
13回目	動物にとっての玉ねぎ中毒・チョコレート中毒について理解できる。
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。
評価方法	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。
【使用教科書・教材・参考書】 学校図書やインターネット等を利用する。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	海洋生態	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	児玉 建
	(Marine Ecology)	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	木曜日3時限
【授業の学習内容】							
前期は海洋生態学を中心とし、後期は陸生動物も含めた進化生態学・行動生態学を中心として実施する。 1年間を通して生態学の基礎を習得し、生物間の相互作用について理解を深める。 特に、海洋の物理的・化学的特性を知り、海洋環境と生物の関係、海洋動物における個体間の相互関係などを学ぶ。 ※担当教員実務経験：2022-2023年 同授業担当							
【到達目標】							
生態学の基礎的な考え方を習得する。また用語を理解する。海洋環境・生物の関わりを科学的に説明ができるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション - 生態学とは
2回目	海洋生態学の入口 - 海と陸の違い / 生物の分類 / 海洋環境
3回目	海洋生物の食物関係 - 食物連鎖 / 栄養段階 / 物質循環・エネルギー流
4回目	漂泳生態系① - 植物プランクトン / 一次生産
5回目	漂泳生態系② - 動物プランクトン / 日周鉛直移動
6回目	漂泳生態系③ - ネクトン
7回目	中間試験 - 前半のまとめ
8回目	中間試験解説 - 前半のまとめ
9回目	底生生態系① - ベントス / 生物の分類 / 帯状分布
10回目	底生生態系② - サンゴ礁 / サンゴ礁にすむ生物
11回目	深海 - 深海の環境 / 深海にすむ生物 / 深海の生態系
12回目	統計学に慣れる - グラフの読み方・表し方
13回目	レポート課題 ※教員の出張等に伴う補講としても実施予定
14回目	期末試験 - 前期のまとめ
15回目	期末試験解説 - 前期のまとめ
準備学習 時間外学習	定期試験では、配布資料や授業内容から、正しい情報を理解して活用する能力を問う。 これらの資料を用いてしっかりと復習を行い、その内容を他人に説明できるように練習しておくこと。
評価方法	■中間試験45点, 期末試験45点, レポート10点, 合計100点
【使用教科書・教材・参考書】	
オリジナルの講義資料を用いるため教材を準備する必要はない。ただし講義内容は主に以下の文献を参考に作成しているため、更に深く勉強したい場合は役に立つ。 ・生態学入門 第2版 (日本生態学会 編 / 東京化学同人) ・シリーズ現代の生態学5 行動生態学 (日本生態学会 編 / 共立出版) ・シリーズ現代の生態学10 海洋生態学 (日本生態学会 編 / 共立出版)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	海洋生態	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	児玉 建
	(Marine Ecology)	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	木曜日3時限
【授業の学習内容】							
前期は海洋生態学を中心とし、後期は陸生動物も含めた進化生態学・行動生態学を中心として実施する。 1年間を通して生態学の基礎を習得し、生物間の相互作用について理解を深める。 特に、海洋の物理的・化学的特性を知り、海洋環境と生物の関係、海洋動物における個体間の相互関係などを学ぶ。 ※担当教員実務経験：2022-2023年 同授業担当							
【到達目標】							
生態学の基礎的な考え方を習得する。また用語を理解する。海洋環境・生物の関わりを科学的に説明ができるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション - 進化とは
2回目	進化① - 適応度 / 自然淘汰
3回目	進化② - 種分化
4回目	種間競争 - 捕食-被食関係 / ロトカ・ヴォルテラの競争式
5回目	資源をめぐる競争 - タカハトゲーム
6回目	共進化 - 共生 / 寄生
7回目	中間試験 - 前半のまとめ
8回目	中間試験解説 - 前半のまとめ
9回目	性淘汰① - 同性間競争 / 配偶者選択
10回目	性淘汰② - 性的対立 / 配偶システム
11回目	社会行動 - 利他的行動 / 血縁選択
12回目	コミュニケーション - 信号の種類 / 正直な信号 / 騙しの信号
13回目	レポート課題 ※教員の出張等に伴う補講としても実施予定
14回目	期末試験 - 1年間のまとめ
15回目	期末試験解説 - 1年間のまとめ
準備学習 時間外学習	定期試験では、配布資料や授業内容から、正しい情報を理解して活用する能力を問う。 これらの資料を用いてしっかりと復習を行い、その内容を他人に説明できるように練習しておくこと。
評価方法	■ 中間試験45点, 期末試験45点, レポート10点, 合計100点
【使用教科書・教材・参考書】	
オリジナルの講義資料を用いるため教材を準備する必要はない。ただし講義内容は主に以下の文献を参考に作成しているため、更に深く勉強したい場合は役に立つ。 ・生態学入門 第2版 (日本生態学会 編 / 東京化学同人) ・シリーズ現代の生態学5 行動生態学 (日本生態学会 編 / 共立出版) ・シリーズ現代の生態学10 海洋生態学 (日本生態学会 編 / 共立出版)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	動物関連法規 (Animal Related Laws and Regulations)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	井田 竜馬
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	遠隔授業			曜日・時限	土曜日1時限
【授業の学習内容】 野生動物や家庭動物を中心として、飼い主を含む人と動物が関わる法律について理解する。 ※担当教員実務経験:行政書士として人と動物に関する各種法律手続きなどに現在まで26年関わる。また並行して愛玩動物動物看護師、狩猟者免許を所持し狩猟を行う。							
【到達目標】 ・外来生物法やワシントン条約など、野生動物に関わる法律について理解できるようになる。 ・狂犬病予防法や動物愛護法などの概要について理解できるようになる。 ・社会における上記の法律などがどのように関わっているのか複眼的に実感できるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	自己紹介、授業概要説明、法律の仕組み
2回目	外来生物法(1) 外来種と外来生物、法律の概要、
3回目	外来生物法(2)特定外来生物、未判定外来生物、罰則など
4回目	ワシントン条約(1) 概要、レッドリストとの違い、留保などなど
5回目	ワシントン条約(2) 附属書Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの概要
6回目	種の保存法(1)法律の概要、国際希少野生動植物種
7回目	種の保存法(2)国内希少野生動植物種
8回目	動物愛護法(1)法律の概要、飼い主の義務など
9回目	動物愛護法(2)動物取扱業など
10回目	動物愛護法(3)特定動物、動物虐待に対する罰則など
11回目	動物が亡くなったとき
12回目	漁業法など
13回目	水産資源保護法など
14回目	前期学習内容の総括及び評価試験
15回目	前期学習内容の振り返り
準備学習 時間外学習	授業終了後、質問があれば質問を行う。 動物に関するニュースに関心を持ち、Webや図書、新聞等を見ておく
評価方法	定期試験の結果(100%)で評価する。 評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC、59点以下をD評価とする。 ただしA、B、およびCを合格とし、Dを不合格とする。
【使用教科書・教材・参考書】 特になし	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	企業プロジェクト (Company Project)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	各企業実務従事者
専攻名	ドルフントレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3、4時限
【授業の学習内容】 様々な動物業界で即戦力として活躍できる人材を育成するために、企業より課題を頂き、それに取り組むことにより、1年間授業で学んだ専門知識・技術に磨きをかけ、プロとしてのスタートラインに立てる実力を身に付ける。 ※担当教員実務経験：研修先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 ・企業から頂く課題(プロジェクト)を理解し、企画立案ができるようになる。 ・アイデアや意見を出し、企画書を作成できるようになる。 ・企業に対して、プレゼンテーションができるようになる。 ・課題(プロジェクト)のイベント運営や商品化される。 ・業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけることができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	企業プロジェクトとは① ～企業プロジェクトの意義や目的・目標を明確にする～
2回目	企業プロジェクトとは② ～過去の企業プロジェクトの事例紹介～
3回目	企業プロジェクトの進め方 ～発表までの流れやスケジューリングの確認～
4回目	オリエンテーション① ～企業から課題を頂く～
5回目	オリエンテーション② ～質疑応答～
6回目	企画立案① ～オリエンテーションを基にグループにて話し合い①～
7回目	企画立案② ～オリエンテーションを基にグループにて話し合い②～
8回目	企画立案③ ～オリエンテーションを基にグループにて話し合い③～
9回目	企画立案④ ～オリエンテーションを基にグループにて話し合い④～
10回目	企画立案⑤ ～オリエンテーションを基にグループにて話し合い⑤～
11回目	現地視察・調査①
12回目	現地視察・調査②
13回目	現地視察・調査③
14回目	現地視察・調査④
15回目	現地視察・調査まとめ
準備学習 時間外学習	・各自(各班)で意見交換を随時行う。 ・プレゼンテーションで頂いた意見を次に繋げる学習をする。 ・パワーポイントにまとめる
評価方法	・発表(報告)内容:50% ・課題への参加度・出席:20% ・日々の取り組み30%
【使用教科書・教材・参考書】 現場での施設備品、道具類	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	企業プロジェクト (Company Project)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	各企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	ドルフントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3、4時限
【授業の学習内容】 様々な動物業界で即戦力として活躍できる人材を育成するために、企業より課題を頂き、それに取り組むことにより、1年間授業で学んだ専門知識・技術に磨きをかけ、プロとしてのスタートラインに立てる実力を身に付ける。 ※担当教員実務経験：研修先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 ・企業から頂く課題(プロジェクト)を理解し、企画立案ができるようになる。 ・アイデアや意見を出し、企画書を作成できるようになる。 ・企業に対して、プレゼンテーションができるようになる。 ・課題(プロジェクト)のイベント運営や商品化される。 ・業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけることができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	プランニング・コミュニケーション①-1
2回目	プランニング・コミュニケーション①-2
3回目	プランニング・コミュニケーション①-3
4回目	プランニング・コミュニケーション①-4
5回目	プランニング・コミュニケーション①-5
6回目	プレゼンテーション①
7回目	プレゼンテーション②質疑応答
8回目	プランニング・コミュニケーション②-1
9回目	プランニング・コミュニケーション②-2
10回目	プランニング・コミュニケーション③-3
11回目	イベント運営・商品化①
12回目	イベント運営・商品化②
13回目	イベント運営・商品化③
14回目	まとめ①
15回目	まとめ発表
準備学習 時間外学習	・各自(各班)で意見交換を随時行う。 ・プレゼンテーションで頂いた意見を次に繋げる学習をする。 ・パワーポイントにまとめる
評価方法	・発表(報告)内容:50% ・課題への参加度・出席:20% ・日々の取り組み30%
【使用教科書・教材・参考書】 現場での施設備品、道具類	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	卒業課題	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	村上 弘志
	(Graduation Study)	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 学んだ専門知識や技術の集大成として、学習成果が卒業に値する実力を修得しているか課題に取り組み、課題の研究発表または実技の披露を行う。							
【到達目標】 学習成果(知識・技術)をパワーポイントやポスター展示、実技披露として発表。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	卒業課題とは① ～卒業課題の意義や目的・目標を明確にする～
2回目	卒業課題とは② ～過去の先輩たちの事例紹介～
3回目	卒業課題の進め方 ～発表までの流れやスケジューリングの確認～
4回目	テーマの決定 ～テーマを班内でのディスカッションで探す～
5回目	実践学習① ～自分(班)のテーマに沿って仮説と実証実験～
6回目	実践学習② ～途中経過の報告～
7回目	実践学習③ ～前回のアドバイスを基に発表内容を改良する～
8回目	発表準備① ～パワーポイント作成～
9回目	発表準備② ～パワーポイント作成～
10回目	発表準備③ ～パワーポイント作成～
11回目	発表準備④ ～パワーポイント作成～
12回目	発表準備⑤ ～パワーポイント作成～
13回目	発表①
14回目	発表②
15回目	卒業課題の振り返り ～各自(班内)で意見交換、発表～
準備学習 時間外学習	各自(各班)で意見交換を随時行う。 また、もらった意見を次に繋げる学習をすること。
評価方法	・発表内容:80% ・課題への参加度:20%
【使用教科書・教材・参考書】 専門基礎科目テキスト4冊／株式会社 滋慶出版	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	業界研修 (Business internship)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	随時
専攻名	ドルフントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 学生が目指す業界の企業または、それに準ずる組織・施設・個人等で研修(インターンシップ)を行う。このカリキュラムは業界のプロフェッショナルになるという大きな目標を前に、自身の進路を明確にするとともに各業界施設での「身構え・気構え・心構え」を知り、就職活動とする。 ※担当教員実務経験:研修先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 ・業界へのイメージと現実のギャップを軽減させる。 ・実際の動物業界での研修を通じ、仕事の流れや職場でのコミュニケーションを図ることができるようになる。 ・社会の成り立ち、社会人としてのマナーやルールを実体験で学び身に付ける。 ・自らの「キャリア」をデザインできる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	インターンシップ参加における目的の確認と目標設定
2回目	企業研究、履歴書作成
3回目	インターンシップ参加
4回目	インターンシップ参加
5回目	インターンシップ参加
6回目	インターンシップ参加
7回目	インターンシップ参加
8回目	インターンシップ参加
9回目	インターンシップ参加
10回目	インターンシップ参加
11回目	インターンシップ参加
12回目	インターンシップ参加
13回目	インターンシップ参加
14回目	研修ノートのまとめ、お礼状作成、レポート作成
15回目	報告会
準備学習 時間外学習	・事前に企業研究、インターンシップ先の選定活動 ・インターンシップ後の研修ノートまとめ、レポート作成
評価方法	・研修ノート内容及び提出(80%) ・インターンシップ先企業からの評価表(20%) これらを総合的に判断して評価
【使用教科書・教材・参考書】 キャリアセンターの参考情報	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	特別講義&見学	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	各施設実務従事者
	(Special Lecture)	授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

各業界で活躍で活躍中のプロフェッショナルから豊富な知識や技術、情報を頂くことで、将来のキャリアデザインに役立てる。
学内やオンラインを使用し講義を行い、実際に施設に訪問する。

※担当教員実務経験：訪問先施設にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

- ・動物業界に必要な知識や技術を理解し、身に付ける。
- ・動物業界に必要な人間力を理解し、身に付ける。
- ・これから動物業界で必要となってくる専門性と人間性を知る。
- ・授業、演習、インターンシップに活かすことができる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	特別講義・見学施設の事前学習、まとめ
2回目	特別講義もしくは施設見学
3回目	特別講義もしくは施設見学
4回目	特別講義もしくは施設見学
5回目	特別講義もしくは施設見学
6回目	特別講義もしくは施設見学
7回目	特別講義もしくは施設見学
8回目	レポート作成
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・特別講義内容もしくは見学施設の事前学習 ・講義後もしくは見学後のレポートのまとめ
評価方法	・レポート(100%)

【使用教科書・教材・参考書】

キャリアセンターの参考情報

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	グローバルコミュニケーション (Global Communication)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	ILC国際語学センター
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	月曜日 5時限、水曜日 1時限、土曜日 1・2時限

【授業の学習内容】

リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。

※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。

【到達目標】

知人・家族について話することができる。職場でのフォーマルなメールを読む、また書くことができる。毎日していることについて話することができる。ポッドキャストについての意見を読む、また書くことができる。今していることについて話することができる。サービス業界の会社へのメッセージを読む、また書くことができる。招待する、またそれに応えることができる。イベントへの招待を読む、また書くことができる。人生の中での過去のイベントについて話することができる。新しい場所での経験についての投稿を読む、また賛成・反対の反応を書くことができる。店内で欲しいものについて述べる。新しい商品の説明を読む、またVlog(ビデオブログ)のためのスクリプトを書くことができる。

授 業 計 画 ・ 内 容			
1回目	所有代名詞(whose)を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
2回目	自己紹介をする。職場でのフォーマルなメールを読む、書く	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
3回目	習慣・ルーティンについて質問する。[Wh-question]を練習する	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
4回目	繰り返しを求める表現を学ぶ。意思疎通に問題があったことを説明する	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
5回目	スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「仕事や勉強のためのアプリについて発表する」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
6回目	「現在進行形」「単純現在形」を練習する。スポーツ、運動について話す	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
7回目	サービス業界の会社へのメッセージを読む、書く	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。中間試験。
8回目	将来のことを説明する際に使う「現在進行形」を学ぶ。将来のプランについて話す	オンデマンド	中間試験解説、前期後半に向けて
9回目	招待する、招待に応える表現を学ぶ。招待を断る理由を説明する	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
10回目	スピーキング: ロールプレイ・プレゼンテーション「プレゼントを選ぶについて」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
11回目	「過去形」(陳述文の否定形; 疑問文)を復習する	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
12回目	新しい場所での経験についての投稿を読む、また賛成・反対の反応を書く	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
13回目	[be going to]を復習する買い物に行くことについて会話する	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
14回目	店内で欲しいものについて述べる。物事の言い方を英語で聞く	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。
15回目	前期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて
準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。		
評価方法	小テストの正解率にて評価 (前期小テスト合計30回の正解率＝100%で計算)		
【使用教科書・教材・参考書】			
EVOLVE2			

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	グローバルコミュニケーション (Global Communication)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	ILC国際語学センター
		授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	後期
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	月曜日 5時限、水曜日 1時限、土曜日 1・2時限

【授業の学習内容】

リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。

※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。

【到達目標】

レストランで頼みたいものについて説明することができる。ファストフード店についての記事を読む、また記事に対する反応を書くことができる。提案をする、また提案をうけることができる。海外生活についてのアドバイスを読む、また書くことができる。意見を尋ねる、また述べる。広告を読む、また写真の説明を書くことができる。将来の予想を立てることができる。アドバイスについてのメールを読む、また書くことができる。したことがあること、ないことについて話すことができる。インフォグラフィックを読む、セルフィーについての短いコメントを書くことができる。天気について話すことができる。場所についての説明を読むことができる。方法についての説明リストを書くことができる。

授 業 計 画 ・ 内 容			
1回目	キッチンカーをデザインする「動詞型」を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
2回目	ファストフード店についての記事を読む、また記事に対する反応を書く	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
3回目	[if / when]の使い方を学ぶ。自分の町で何をするかについて話す	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
4回目	「問い返し疑問文」を学ぶ。提案をする、また提案をうける表現を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
5回目	スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「短期旅行のプランを立てる」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
6回目	「形容詞の最高級」を学ぶ。写真に写った人について話す	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
7回目	広告を読む、また写真の説明を書く	オンデマンド	振り返り。中間試験
8回目	[have to]の使い方を学ぶ。職場での危険を回避することについて話す	オンデマンド	中間試験解説、後期後半に向けて
9回目	[It feels like (it's like)]を使い、健康問題について話す;健康問題についてアドレスをもらう	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
10回目	スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「リアリティ番組を計画し、発表する」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
11回目	ソーシャルメディア(ネット)生まれの動詞を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
12回目	インフォグラフィックを読む、セルフィーについての短いコメントを書く	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
13回目	[be like]を使い、天気について話す	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
14回目	道を聞く、道順を教える際に使う表現を学ぶ。言い改める際に使う表現を学ぶ、復習する	オンデマンド	振り返り
15回目	後期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて
準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。		
評価方法	小テストの正解率にて評価 (後期小テスト合計30回の正解率＝100%で計算)		
【使用教科書・教材・参考書】			
EVOLVE2			

2024年度 シラバス

科 目 名 (英語表記)	イベント運営 (Event Management)	必修 選 択	必修選択	年 次	2	担当教員	各イベント実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学習成果の発表の場としてのイベントを行い、修得した専門知識や技術を実践する。
企画立案から運営まで学生主体となって実践し、接客力、コミュニケーション力も上げる。

※担当教員：各イベントにおける実務従事者より指導頂く。

【到達目標】

- ・企画立案、運営ができるようになる。
- ・マネジメント(セルフ・チーム・リスク)を理解し、実践できるようになる。
- ・接客を知り、実践できるようになる。
- ・ホスピタリティマインドを理解し、実践できる。
- ・予算管理を実践し習得する。
- ・スケジュールリングを理解し、実践できる。

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	企業からのプレゼンテーション～イベントの概要の共有、スケジュール～
2回目	イベントの企画立案①
3回目	イベントの企画立案②
4回目	企業へのプレゼンテーション
5回目	イベント準備①
6回目	イベント準備②
7回目	実施日～実演、展示、発表～
8回目	まとめ～レポートにまとめ、各班で発表～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・各自、目的に沿った案を考える ・イベント後レポートにまとめる
評価方法	・準備(50%) ・レポート(50%)
【使用教科書・教材・参考書】	
過去のイベント資料	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	特別課外活動 (Club Activities)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	各クラブ顧問
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 学生会活動やクラブ活動を通してチームワークや企画、運営力を養う。							
【到達目標】 ・チームワークを身に付ける。 ・計画性を身に付ける。 ・予算管理を身に付ける。 ・マネジメントを理解し身に付ける。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	各クラブにおける目的の確認
2回目	各クラブ活動を実践
3回目	各クラブ活動を実践
4回目	各クラブ活動を実践
5回目	各クラブ活動を実践
6回目	各クラブ活動を実践
7回目	各クラブ活動を実践
8回目	各クラブ活動を実践
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・日報や日誌、報告書を作成すること。
評価方法	・クラブ活動態度(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 ・各クラブ活動月報、日報、日誌、報告書	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ボランティア活動 (Volunteer Work)	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	各施設実務従事者
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
		実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 市民社会の形成に貢献するために様々な形のボランティア活動を行う。 ※担当教員：各施設・イベントにおける実務従事者より指導頂く。							
【到達目標】 ・ボランティア活動の目的を理解し、実践することで奉仕する心を身に付ける。 ・社会の中の自分の存在を理解し、社会貢献の意識を持つことができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	プレゼンテーション～主催者からの趣旨説明～
2回目	ボランティア活動
3回目	ボランティア活動
4回目	ボランティア活動
5回目	ボランティア活動
6回目	ボランティア活動
7回目	ボランティア活動
8回目	まとめ～レポート、報告会～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	実施前後のレポートのまとめを行うこと。
評価方法	レポート(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去のボランティア活動報告書	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	資格取得講座	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	熊谷 亮太郎
	(Seminar for a Qualification)	授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	ドルフィントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 各専攻で学んだ専門知識や技術の更なるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し、資格取得を目指す。							
【到達目標】 各検定試験、資格試験の合格							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
2回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
3回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
4回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
5回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
6回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
7回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
8回目	資格検定試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	毎回の授業前後の資格検定対策教本の予習、復習を行うこと。
評価方法	資格取得、検定合格(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去の各検定、資格教本	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	内定者研修 (Practical Training For Prospective Employees)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	就職内定先企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	後期
専攻名	ドルフントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 就職内定者を対象に、就職内定先で実践的な研修など現場経験を積むことで、卒業時に即戦力として活躍できるようになる。 ※担当教員実務経験：就職内定先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 1. 就職内定先で業務を行う上で必要な経験を積み、卒業時には即戦力として活躍できる人材になる。 2. 就職内定先で業務を行う上で必要な専門知識・技術を身につけ、就職内定先に貢献できる人材になる。 3. 就職内定先で業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけ、就職内定先に貢献できる人材になる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	就職内定先において業務経験を積む (1)
2回目	就職内定先において業務経験を積む (2)
3回目	就職内定先において業務経験を積む (3)
4回目	就職内定先において業務経験を積む (4)
5回目	就職内定先において業務経験を積む (5)
6回目	就職内定先において業務経験を積む (6)
7回目	これまでの業務のまとめと振り返り
8回目	就職内定先において業務経験を積む (7)
9回目	就職内定先において業務経験を積む (8)
10回目	就職内定先において業務経験を積む (9)
11回目	就職内定先において業務経験を積む (10)
12回目	就職内定先において業務経験を積む (11)
13回目	就職内定先において業務経験を積む (12)
14回目	これまでの業務のまとめと振り返り
15回目	今後の課題とその対策をまとめる
準備学習 時間外学習	業務中に学んだこと、気づいたことなど、メモした内容を、ノート、word、excel、にまとめること。
評価方法	日々の業務における日報を就職内定先に提出し、就職内定先の方との面談による振り返りを行い、業務の習得度合いで評価を行う(100%)。
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	特別研究課題 (Advanced Research Project for Prospective Employees)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	就職内定先企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	180 (12)	開講区分	後期
専攻名	ドルフントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 就職内定者を対象に、就職内定先から従来の業務を改善する課題をいただき、どのような改善を行うことが作業の効率化が図れるか、これまで身につけた専門知識技術を総合的に発揮できるようにする。 ※担当教員実務経験:就職内定先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 1. 業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアをまとめることができる。 2. 課題を解決するアイデアを実践することができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (1)
2回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (2)
3回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (3)
4回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (4)
5回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (5)
6回目	課題を解決するアイデアを報告し、質疑応答を行う
7回目	課題を解決するアイデアのブラッシュアップを行う (1)
8回目	課題を解決するアイデアのブラッシュアップを行う (2)
9回目	ブラッシュアップしたアイデアを報告し、質疑応答を行う
10回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する (1)
11回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する (2)
12回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する (3)
13回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する (4)
14回目	検証結果をまとめる
15回目	検証結果の報告を行い、今回の課題改善の振り返りを行う
準備学習 時間外学習	現場経験を積みながら、業務内容をメモしたものを、ノート、word、excellにまとめること。
評価方法	課題を解決するアイデアを実践することで得られた結果を検証し、その報告内容によって評価する(100%)。
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	卒業企業課題 (Graduate Assignment for Prospective Employees)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	就職内定先企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	180 (12)	開講区分	後期
専攻名	ドルフントレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 就職内定者を対象に、就職内定先よりお客様が喜ぶようなイベントを考える課題をいただき、イベントの企画・立案を行う。 プレゼンテーション後に企画が採用されたら、その企画を実践する。 実施後には、振り返りを行い就職後の業務に活かす。 ※担当教員実務経験: 就職内定先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 1. お客様が喜ぶイベントの企画を立案することができる。 2. 企画したイベントについて、現場の担当者にプレゼンテーションすることができる。 3. 採用されたイベント企画を実践することができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる (1)
2回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる (2)
3回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる (3)
4回目	お客様に合うイベントを企画・立案する (1)
5回目	お客様に合うイベントを企画・立案する (2)
6回目	お客様に合うイベントを企画・立案する (3)
7回目	企画したイベントについて、現場の担当者にプレゼンテーションする
8回目	プレゼンテーションでいただいた意見を参考に企画をブラッシュアップし、再度プレゼンテーションする
9回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする (1)
10回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする (2)
11回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする (3)
12回目	企画したイベントの実践 (1)
13回目	企画したイベントの実践 (2)
14回目	企画したイベントの実践 (3)
15回目	イベントの振り返りとまとめ
準備学習 時間外学習	現場経験を積みながら、業務内容をメモしたものを、ノート、word、excellにまとめる。
評価方法	イベントの企画・立案力: 30% プレゼンテーション力: 30% 実践力: 40% 上記の3段階に分けて、それぞれの評価を行う。
【使用教科書・教材・参考書】	